

特252

463

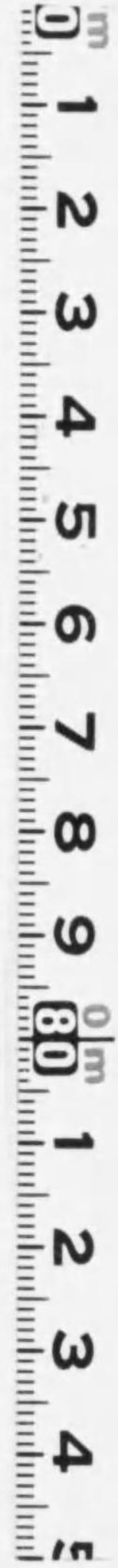
トツレフンパ描素育教

輯一第

學業知能と身体相關の研究

醫學博士 原 勇 指導  
出島小學校校醫 宮崎 春雄 指導  
安藤研究所長海軍中佐 安藤 證次郎 指導  
川崎市出島尋常小學校校調査

教育素描同人會



始





特 252  
463

トツレフンバ描素育教



會人同描素育教



◎パンフレット刊行に際して

素拙同人會が常に志すところのわれ／＼の日頃の仕事をわれ／＼の手で……といふ念願の第一は雜誌の發行であり第二はこのパンフレットの發行であります。

幾多有意義な研究がわれ／＼實際教育家の手で行はれて居るが、その大切な文献が多くの方々に知られずしてしまふ事は残り惜しい氣持がする。一教師の或は一學校内の者々となされた實際的な研究物がどの位その人の卓の中や學校の研究物戸棚に埋藏されて居ることだらう。

これらのものを世に出す。これが此のパンフレット刊行の使命である。研究の如何を世に問ひたいと思ふても仲々商賣人は利得損失を第一として話しがうまい具合に行かない。又頁数の小さなものだとか、或は經濟の關係といつた工合で仲々個々の研究を世に問ひ、或は世の人これによつて參考となすの機が得られないものである。商賣人は利害を考へわれらは教育といふ仕事を考へる。

われらの同人會はこの事を遺憾として少くも同人會の研究物は同人間にだけでも頒ちて隨意なき批評と利用とをしようといふ立場から仕事を進め來つて居るものである。そして會員外の希望者有志の方々には勿論實費で領つて研究の指導と伴侶と友情とのつながりを得る事が教育界への多少なりとも貢獻であり任務であるとの事から同人の會の經濟の許す範圍で部數を増して印刷する事にしたのである。

讀書學兄等にしてわれ／＼の困難多きこの事業を敢て行ふ所以の志を諒とせられて此の仕事の達成へのうるはしき協力を願ふものである。

昭和七年四月

教育素描社



目次

第一章 研究調査問題の討究……………一  
第二章 學童期の疾病異常……………一  
第一節 疾病の意義……………一  
第二節 異常の意義……………一  
第三節 疾病と異常との關係……………一  
第四節 疾病の分類……………二  
第五節 體質、體質異常と疾病……………三  
第六節 學童期の疾病異常……………三  
第三章 疾病異常の検査……………四  
第一節 検査者及被検査者……………四  
第二節 検査方法……………五  
第四章 個性類型と醫學的調査……………一〇  
第一節 各類型の説明……………一〇  
第二節 類型検査者選出の方法……………一〇  
第三節 個性類型と醫學的調査……………一六  
第四節 結論……………一六  
第五章 學業成績と醫學的調査……………一三  
第一節 學業成績の性質……………一三  
第二節 學業成績の意味……………一四  
第三節 學業成績の表明……………一四  
第四節 成績表明の實際……………一五  
第五節 類群の説明とその選出……………一六

第六章 學業成績と醫學的調査……………二六  
第六節 知能程度と醫學的調査……………二八  
第一節 知能と學業成績……………二八  
第二節 大伴氏知能本質說……………三〇  
第三節 大伴氏知能テスト……………三〇  
第四節 知能標準評點とその診斷……………三〇  
第五節 知能と疾病異常との關係……………五一  
第七章 性能検査と醫學的調査……………五一  
第一節 安藤氏性能検査……………五一  
第二節 性能検査と醫學的調査……………六〇  
第八章 若溪會算術検査と醫學的調査……………六四  
第一節 若溪會算術検査……………六四  
第二節 若溪會算術應用問題……………七七  
第三節 算術検査と醫學的調査……………七七  
第九章 寄生蟲と算術検査……………八四  
第一節 寄生蟲と算術検査……………八四  
第二節 寄生蟲と情意……………八四  
第十章 成績向上への道……………九五  
第一節 心身相關……………九五  
第二節 學業知能向上の衛生施設……………九五  
第三節 五官器の故障……………九六  
第四節 寄生蟲……………九六  
第五節 身體發育……………九八  
第六節 營養異常……………九八  
第七節 食物調査……………九八



## 學童の疾病異常と學業知能等との關係

### 第一章 研究調査問題の討究

研究調査すべく與へられたる問題の内容は次の三方面を  
管んでゐるものと思ふ。

#### 第一 學童期に於ける兒童の疾病異常

#### 第二 學童期に於ける學業成績と知能

#### 第三 其相關々係

そこでこの三方面について一と通り見解を述べた上で、  
この相關々係の研究調査の結果を述べることとした。

### 第二章 學童期の疾病異常

#### 第一節 疾病の意義

疾病は健康に對していふものであるが、その差異は絕對  
的のものではない。其の差異は移行的關係的なもので其の  
區別は明快を欠いて居る。即ち個人によつて之が範圍必ず  
しも一定しては居らない。即ち健康といふも、疾病といふ  
も共に身体の生活機能であつて、疾病は只其の生活機能の  
障害即ち異常であるに過ぎない。  
個人に疾病あるといふことを自覺するのは、生活機能の

變調によるのである。要するに身体組織体に於ける生活機  
能の障礙、生活機能の平衡を破つた場合であることになる。  
そしてかかる機能の障礙が起るまでには、一定の時間を  
要するものであり、一定の持続性を要することになり、一  
定期間を占領する生活現象のことになる。

#### 第二節 異常の意義

異常とは所謂常態と異なるといふことの意味であつて、  
形態及び機能の上に異常を表はすことをいふのである。即  
ち常態にては外形の上に機能の上に存在、現象を認め得ら  
れざるものを認められるのをいふ。

之を生活機能についていふならば、常態に於ての組織的  
構造の正常ならざる状態、現象を意味するものである。そ  
してかかる異常状態、異常現象は、異常の機能を伴ふのが  
普通である。

#### 第三節 疾病と異常との關係

彼の身体組織体に於て、生活機能の障礙を生じて、それ  
が存続性を有して居るとき、それが所謂疾病といはるべき  
状態であるとすれば、それが急速に経過する瞬時性の障礙  
は、これを直ちに疾病とはいへない。



而も人が自分の身体に疾病の存在を自覚するのは、自己の身体の生活機能の障礙を感ずるのであつて、所謂異常官能のあることである。異常官能は異常機能ともいふ。異常感能のあるところには、機能、構造の變調を伴ふのが普通である。然しその變調を末だ検出し得ざる場合もあり、又變調の伴はざるの觀を呈したり、或は構造の變化を基礎とせざるの觀を呈する場合もないではない。而し研究の進歩に伴つて、そうした範圍は次第に縮小されるものであることは言ふまでもない。

兎に角異常を示して感能が存続性を持つて居る状態を疾病といふことになり、疾病は異常感能を伴ふものである。

疾病といふ生活機能に異常あるときは、身体内にて種々の形態及機能の變化が表はれて來るものである。この形態と機能とは常に相關的なる作用をなして居るもので、異常の場合としても矢張りさうである。

こうした立場に於ての疾病異常と學業性能等の相關を研究するのが本稿の主眼とするところである。

#### 第四節 疾病の分類

疾病の種々なる場合、疾病の原因について分類して見ると次の如く考へられる。

##### (一) 器質的の疾病

この疾病は形態上の變化が特に著明なる場合である。即ち形態的に捉はるべき臟器組織の顯著なる變化あり、之を

基礎として發生する疾病のことで、今日に於ける最も多くの疾病である。

##### (二) 機能的の疾病

器質的の疾病に對する語であり、明らかに形態的(肉眼的、鏡檢的)に把ふべき變化のない、把捉され得ざる疾病をいふのである。

この形態と機能とは親密に相隨伴して居るものであつて、全然對抗せしめて考へることの出來ないものであることは直前に述べた。

その點から考へて疾病を器質的と機能的とに區別することの不可能なるを思ふも、こゝには便宜上使用せられて居るのに従つたのである。

##### (三) 局所的の疾病

疾病の基礎をなす局所の病變の顯著なるものについていふのであつて、全身的の疾病に對する言葉である。現在に於ては局所の病變によつて命名せられたる疾病が多い。

かゝる局所的に病變ありしものが、やがて全身のとなることもある。これ個人体内にて局所と局所との間には、不斷的關係と親密の關係とがあるものであるから局所疾病を孤立的、獨立的に考へてはならない。

##### (四) 全身的の疾病

病變が局所にのみ限定せられずして、汎く全身に蔓延して居るか、若しくは局所の病變不明で全身の物質的代謝が

特に著しく侵害せられるものである。

すべて個体は一つのみよりたゞる全体であるから局所について、又は時に局所間の關係について、更に綜合の全体について考へねばならぬ。

以上述べたるよりも、別の方面から疾病を別けて考へることが出来る。即ち疾病の経過の長短からすれば、

##### 急性、亞急性、慢性、

疾病の發生若くは蔓延の次第によつては、

##### 遺傳性疾病、先天性疾病、傳染病、流行病、

##### 地方病、

又疾病の命名が原因によるもの、症狀より命ずるもの、病理解剖的なるもの等がある。

##### 第五節 體質、體質異常と疾病

體質とは生れながら持つて居る素質であつて、個人身体に固着して居る性質のことであり、個人身体の解剖的及び生理的造成の總計である。従つて肉體の秩序を定めるところの肉體の條件の總計であるともいへる。

健康体の範圍内に於て個人により解剖的に又機能的に又稟質の上に體質の差異が現はれるのである。その差異に基き外形上型を區別し得るものである。即ち呼吸器型、消化器型、筋肉型、腦髓型の如きは、それである。

體質異常には、形態の異常と、機能の異常との別がある。體質が常人と異つて異常を現はすとき身体の形態及び機

能の上に種々なる異常を表はすものである。これ疾病の發生に對して時に異つて力あるは體質の異常であるからである。この體質異常に病因上の重要な基礎を有する疾病のことを體質病といふ。體質健康と、體質異常とはその差別必ずしも判然としてゐない。これ相移行することが多いからである。

要するに身体々質を其儘疾病視せず、體質の異常を基礎とする疾病と、全身病と同一視しないで欲しいものである。

身体の形態異常といふのは、身体の發育が普通でなくて不十分であるとか、過度の發育、その性質の障害を現出して居るものであつて、全身、皮膚、頭部、顔面、四肢、軀幹、復部等にあることがある。

機能の體質異常は外界の刺激に對する身体反應の異常、代謝機能の異常、各個臟器作用の異常として表はれるもので、左利、遺尿、啞吃等皆さうである。

##### 第六節 學童期の疾病異常

こゝに學童期といふのは、小學校に在學する時代即ち七八才から十三、四才に至るまでの間をいふのである。

この期に於ては大人と異なる疾病異常があるものであるが、こゝには多く發見せらるゝ主なる疾病異常を掲げることとする。

##### 一、五官器障害

1、眼疾患……トラホーム、單純性結膜炎、滲胞性



- 結膜炎、眼瞼縁炎、フクテリン、漏眼、
- 2、視力故障……近視、遠視、亂視（屈折）、弱視、色盲、色弱、
- 3、聽力障害……中耳炎、中耳炎、中耳炎、鼓膜穿孔症、鼓膜陥凹症、
- 4、鼻疾患……鼻カタル、肥厚性鼻炎、鼻茸、蓄膿症、
- 二、結核性  
 淋巴腺腫脹、肺門淋巴腺腫脹、頸腺腫脹、
- 三、扁桃腺炎
- 四、發育障害……重病後影響、栄養不足、内分泌腺異常（甲状腺、胸腺、腦下垂体、松葉腺）、
- 五、栄養障害……食物攝取量不足、食物成分配合不適當、寄生蟲病、持久性疾患、滲出性体質、
- 六、異常体質……胸腺淋巴質、滲出質、神經關節炎質、精神病的体質、
- 七、貧血質……先天性貧血、腸寄生蟲、結核、先天性梅毒、心臓病、食餌性貧血、學校貧血、

- 八、消化器疾患……口内炎、齒齦炎、齶齒、齒根膜炎、齒槽膿瘍、齒列不整、ヘルニア、
- 第三章 疾病異常の検査**
- 第一節 検査者及被検査者
- 本調査は二回に亘つて行はれたものである。
- 第一回
- (一)日時 昭和六年二月二十二日
  - (二)場所 田島尋常小學校
  - (三)検査者 (慶應義塾大學醫學部)
    - 齒科教室 重浦卓一 並木 慶
    - 小兒科教室 堀内富男 竹下成一 宮川 浩
    - (東京市四谷區技師) 北村武彦
    - (小兒科醫院長) 折原 勇
    - (夜 醫) 中島舞雄 喜早圭吉 九島賢三 田宮貞仁
  - (四)被検査者 一年より六年に亘る男子中より左記に該当する兒童二五

○名を選んだ。その選出方法並びに各型持長は後節に於て之を述べることにする。

- 融合型 三二名
- 思索型 一九名
- 活動型 二九名
- 不定型 一七名
- 異常型 三一名
- 智能最優 三六名
- 智能最劣 二五名
- 体質最優 一六名
- 体質最劣 一三名
- 性格善良 二一名
- 性格不良 一一名

外に二年生男女計六十七名を調査した。之は學校生活が如何に兒童の身心に影響を與へてゐるかを知らんとしたのである。

- 寄生蟲 醫學博士 折原 勇
  - 小兒科 醫學士 折茂惠二郎 竹下成一
  - 眼科 醫學博士 山崎 順
  - 外科(整形) 醫學士 村上 晋
  - 耳鼻咽喉科 醫學士 西原 氏
- (四)被検査者  
 第一男女計二八六名  
 第二男女計一九五名  
 合計四八一名
- 第二節 検査方法
- 検査は直前に述べたる諸博士、諸學士によつて行はれたのであるが、各科専門によつて分類検査したことは云ふまでもない。
- 而してその検査は第一成るべく詳細にして異常の全体を指摘するにつとめたことである。第二には前述したる學童期に多い疾病異常には特に注意したことである。
- 次に参考としてその検査用紙を掲ぐることにする。

- 第二回
- (一)日時 昭和六年十月十八日
  - (二)場所 田島尋常小學校教室
  - (三)検査者 (慶應義塾大學醫學部教室)
    - 小兒科 醫學博士 宮川 浩







RIGHT  
 MESIO-DISTAL DIAMETERS  
 LEFT

身體發育、營養異常	身長		滲出質		內科的異常	結核	淋巴腺腫脹	
	體重		神經關節炎質			結核	淋巴腺腫脹	
	胸圍橫徑		精神病的體質			結核	頭腺腫脹	
	營養不足					結核		
	內分泌腺異常					結核		
	食物攝取量不足					貧血		
	成分配合不適當					腺病質		
	寄生蟲病					心臟病		
	持久性疾患					心音異常		
	滲出性體質					氣管支加答兒		
	脊柱					氣管支喘息		
	發育概評					〜ルニ十		
	座高					先天微毒		
	頭圍					言語障礙		
體格				畸、形				
				其他				

(川崎市田島尋常小學校)



第四章 個性類型と醫學的調査

第一節 各類型の説明

(一) 類型的、人格的見方  
吾々は兒童を次に記する五類型の何れかに該當せしめてゐる。各類型の詳細なる特徴は之を形式的個性調査表(参照)に譲り、今最も特徴とすべき二、三の點を記することとする。

融合型

- 1 刺激に對する反應速くして正確深刻
- 2 理智的にして、且つ情意的
- 3 創作活動の人

思索型

- 1 刺激に對する反應遅くして正確深刻
- 2 理智的
- 3 技術拙劣

活動型

- 1 刺激に對する反應速くして粗漫淺薄
- 2 活動的、社會的
- 3 發表的な人

不定型

- 1 刺激に對する反應遅くして粗漫淺薄
- 2 以上三類型に屬せざる者

異常型

1 異常者  
右は類似度の多い個性を集めて精神的、普遍者として理解するものであつて、單なる特殊でもなく普遍でもなく、具體的な人間として把握したるものである。  
そして右は價値實現の活動に於て比較的、形式的、心理的な心理活動の方面から見たるものであるから形式的個性の類型的見方であると思ふ。

(二) 智能優劣の見方

智能とは云ふものの、之の場合には學業を主とせるものであつて學級兒童について學業成績を五段階に分類し(その詳細は後節に説く)、それに基づいて定めたものである。

智能最優 學業成績の最優段階に屬する者  
智能最劣 學業成績の最劣段階に屬する者

(三) 體質優劣の見方

體質最優 体格検査成績の最優段階に屬する者  
體質最劣 体格検査成績の最劣段階に屬する者

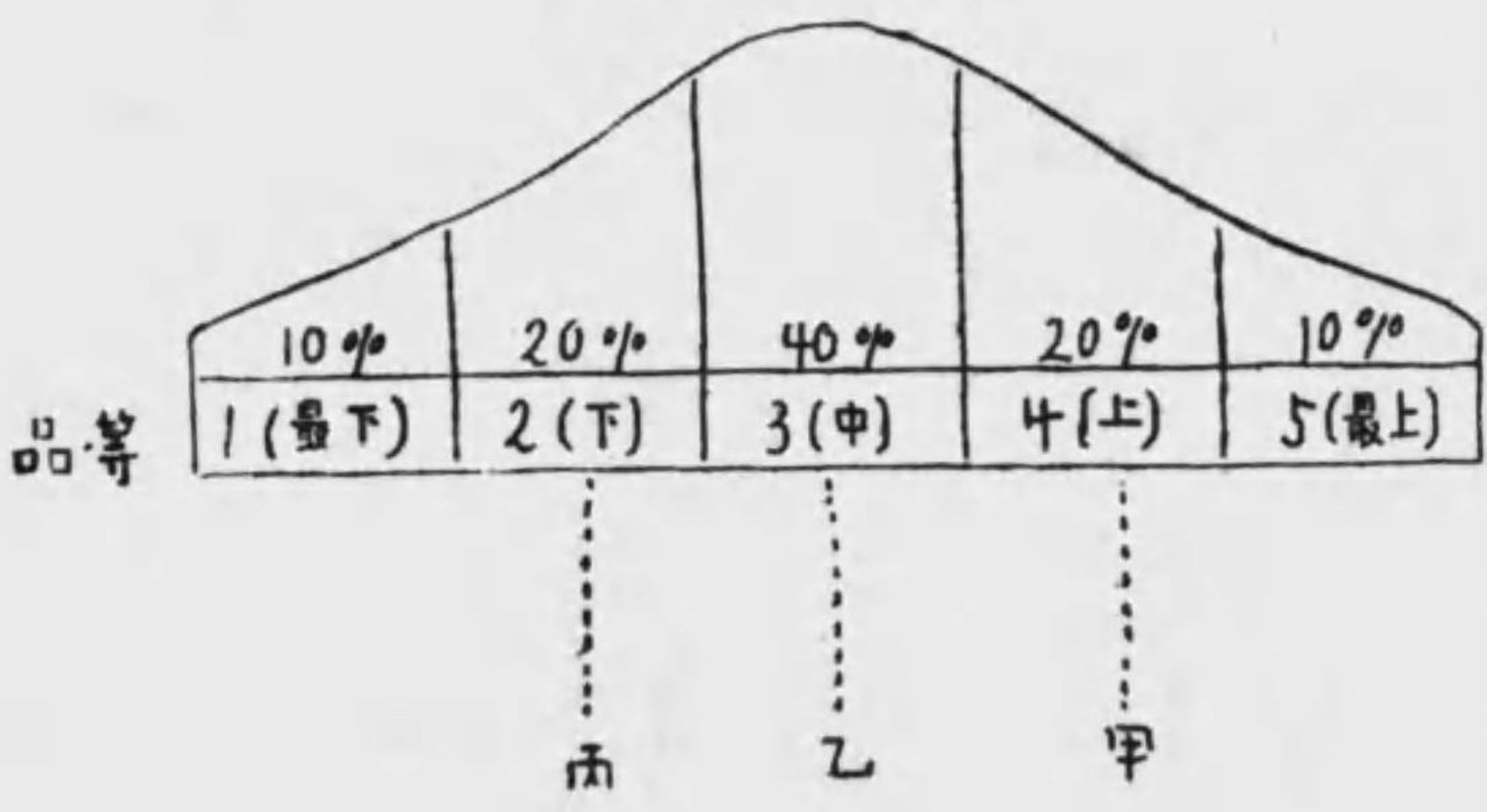
(四) 性格善惡の見方

性格善良 操行考査成績の最良段階に屬する者  
性格不良 操行考査成績の最劣段階に屬する者

第二節 類型該當者選出の方法

(一) 五類型該當者の決定  
融合、思索、活動、不定、異常の五類型は診斷法と觀察

分配曲線



類型決定の標準

- 融合型
- 思索型
- 活動型
- 不定型
- 異常型

形式的個性調査用紙に記入せられなし。  
への記入したるものを一括して提出下さい。

- 知能品等
- 體質品等
- 性格品等

- 最下、下、中、上、最上の五品等も推定して記入せられなし。
- 知能については、考査の結果と、平常観察の上から推定。
- 體質については、特別検査の結果と、平常観察の上から推定。
- 性格については、訓練誌に表はれたるものと、平常の観察の上から推定(個性の特征的に統一せられ、固定し一貫した行為としてあらはれるものを性格と見よ)



# 型式的個性調査票

姓名	検査日
学年別	備考

融合型	思 索 型	活 動 型	不定型	異 常 型
<p>1 自己から創作する</p> <p>2 正確なる作品を造る 完結する迄製作する</p> <p>3 技術も秀で居る</p> <p>4 着實丁寧である</p> <p>5 完結の時間が早い</p>	<p>1 特形細身の者もある 顔色青いか 白いか 淡黒い 暗々した趣がない</p> <p>2 皮膚厚く木彫の面の様である</p> <p>3 毛深く毛はこわい</p> <p>4 身じまりを重んずるか 形式を重んずるか</p>	<p>1 本つて居る者もある</p> <p>2 用いる顔をして居る さばさばして居る</p> <p>3 皮膚がうすい</p> <p>4 毛柔か 毛うすいか</p> <p>5 自由無造作の態度をして居る 平然として居る</p>	<p>1 融合型、思索型、活動型の何れにも属しないものである</p> <p>2 この類型の中には思索型の中の活動型の何れにも属しないものである</p>	<p>1 面相が變つて居る 中には滑稽なのがある</p>
<p>1 自分で物を見る 主観できめる</p> <p>2 分析したがる 細かに物を見る</p> <p>3 哲學性 藝術感が鋭い それが個性的である</p> <p>4 多くを語らない 理論家である</p> <p>5 別がよいが 努力家か</p>	<p>1 主観で物を見る 静かに考へこんで居る</p> <p>2 正確なる作品を作る 構作品にも多少の工夫をする</p> <p>3 技術拙劣である</p> <p>4 秘密 着實 丁寧である</p> <p>5 時間を惜しまず仕事をするか 時間をおしんで仕事をするか</p>	<p>1 仕事をよく引受ける 仕事をせすに居られる</p> <p>2 構作なる物が多い 作品の完結を急ぐ</p> <p>3 技術が優れて居る</p> <p>4 理解は早い 誤りもある 大まかな仕事をやる</p> <p>5 仕事をよくする活動家 事業家である</p>	<p>1 衝動反應は早い 興奮がある 敏速迅速</p> <p>2 気分本位か 氣立てがよいが、氣まぐれか 附加雷同し易いか 氣をよ配るか 無造作か</p>	<p>1 衝動と反應との間隔がある 動作不活潑であるか 放漫なる行動をするか</p> <p>2 自己の確立がないか 受動的であるか</p>
<p>1 遊戯回数が多い</p> <p>2 學問的なる遊戯が多い</p> <p>3 乱雑な遊戯の内容は少ない</p>	<p>1 遊戯する回数が多い(回数と種類)</p> <p>2 乱雑な遊戯が少ない</p> <p>3 団体的遊戯が少ない</p>	<p>1 相應数多くする(回数と種類)</p> <p>2 遊戯する種類も多い</p> <p>3 団体的遊戯をする</p>	<p>1 遊戯回数が多い(回数と種類)</p> <p>2 遊戯する種類も多い</p> <p>3 団体的遊戯をする</p>	<p>1 遊戯回数は少ない</p> <p>2 遊戯する種類も少ない</p> <p>3 簡單で頭を使はず出来るものをする</p>

作 (操 行)	音 語	文 章	遊 戯
<p>3 活潑である</p> <p>4 よく思索しよく活動する</p> <p>5 圓滑なる行動をする</p>	<p>1 言葉巧みに話す</p> <p>2 言葉明晰である</p> <p>3 語彙豊富である</p>	<p>1 現實的情念の方面が欠けて居るか</p> <p>2 叙述は細かい 表現が断續的である</p> <p>3 構想表現はかたよごまよつて居る</p> <p>4 理智的なる明敏さがある 主張が多い</p>	<p>1 遊戯する回数が多い(回数と種類)</p> <p>2 遊戯する種類も多い</p> <p>3 団体的遊戯をする</p>
<p>3 敏感であるか 興味が少ないか</p> <p>4 非社長的であるか 熱狂的であるか 過激的であるか 神經質的であるか</p> <p>5 打算的であるか 冷酷であるか 懲辱するか 熱がないか</p> <p>6 情念活動を欠き理智的であるか</p> <p>7 獨立獨居出来る 無言の實行家である 友人が少ない 友がなつかぬ友人を作らない 友人と心から交はる 極端な道徳家か 氣にし易いか 必要以上に緊張するか 理想家肌であるか 懐疑的であるか</p> <p>9 自分のすべきな事はよくする 義務的にはしない</p> <p>10 環境に順應し難いか かはる度に困るか</p>	<p>1 簡約な言葉を使ふか 豪言であるか だまら込むか 使ひ方がまづいか 5まいか</p> <p>2 言葉を細かく切つて話すか</p> <p>3 語に統一がある</p>	<p>1 言葉使ひが巧みであるか 冗腐であるか 斷續的である</p> <p>2 長く續けて話す 叙述はすらすらやる</p> <p>3 語に統一を欠くか 混亂があるか</p>	<p>3 平氣である 向ふ見すの本直か 淡白か 氣さくが 氣にかけないか 實行家である 人を喰つて居るか 温良か 4 社長的であるか 淋しさを待つか (やしがらるか 一人喜ぶか 何事も苦にしないか</p> <p>5 よく笑ふか 涙もろいか うすつ活氣あるか</p> <p>6 親しみ易いか 他人の事に喰ひ入らないか 赤面する事が稀であるか</p> <p>7 ぼんやりして居る事が多いか 友人を多く造るか 親友が少ないか 他人に頼るか</p> <p>8 活動機智に富むか 輕忽か 思慮綿密周到を欠くか</p> <p>9 義務を忠實につくすか 物事を手段的にするか</p> <p>10 環境によく順應し融通無礙である</p>
<p>3 單純なる行動をするか</p> <p>4 決斷がないか 輕忽か 鈍重か</p> <p>5 名利を超越して居るか</p>	<p>1 明晰を欠いて居る 巧みでもない</p> <p>2 語彙貧弱である</p> <p>3 語の節が通つて居らな い事がある</p>	<p>1 叙述的なる文が多い</p> <p>2 叙述は荒い 外面的觀察をする 淺薄な事がある</p> <p>3 構想の表現にまごまごがない</p> <p>4 明敏さを欠くか 冗長にして主張が不明か</p>	<p>1 遊戯回数は少ない</p> <p>2 遊戯する種類も少ない</p> <p>3 簡單で頭を使はず出来るものをする</p>



### 型式的個性調査票

種	含	思	活	動	不定型	異
讀	1 一分間音読字数 270字内外 2 読頭殆どなく語句に注意しつゝ流暢に読みあがる讀力をする 3 統覺力明敏速確で文意語意等把握する	1 一分間音読字数 280字内外 2 讀頭もある 語句を押へつゝ緩徐に読みあがる讀力をする 3 統覺力明敏なれど文を主観的にか運智にか見ろ	1 一分間音読字数 300字内外 2 表面的な流暢の讀力をする 3 統覺力明敏を欠き 機械的か 寫實的かに長ずる	1 一分間音読字数 300字内外 2 表面的な流暢の讀力をする 3 統覺力明敏を欠き 機械的か 寫實的かに長ずる	1 一分間音読字数 220字内外 2 語を迫りつゝ表面的に讀む 誤讀が多い 3 統覺が遅鈍である	1 一分間音読字数 220字内外 2 語を迫りつゝ表面的に讀む 誤讀が多い 3 統覺が遅鈍である
方	1 綴字数 500字乃至700字 長文短文自由に綴る 2 叙述思索何れの文も綴る 3 着想構想自體何れもよい 4 深みある文底光りある文を綴る	1 綴字数 300字乃至500字 集約的な短文が多い、部分の叙述とす 2 綴るに沈思黙考して筆を下すことが遅い 3 思想統一あり文ひきしまつて綴る 4 文の訂正をよくする	1 綴字数 700字乃至800字 連綿長文が多い 冗長なるもある 2 提示によつて直ちに書き下す 3 叙述的の文が多い 4 思想混亂がある (執筆後概ね十五分後ではじまる) 句讀點が少ない 5 文の訂正を好まない 平氣である	1 綴字数 700字乃至800字 連綿長文が多い 冗長なるもある 2 提示によつて直ちに書き下す 3 叙述的の文が多い 4 思想混亂がある (執筆後概ね十五分後ではじまる) 句讀點が少ない 5 文の訂正を好まない 平氣である	1 綴字数 200字乃至300字 筆路速滞し中途にて往々擱筆したりする 2 提示されども呆然として容易に筆を下さない 3 思想散漫で不統一である 4 綴字数が多い	1 綴字数 200字乃至300字 筆路速滞し中途にて往々擱筆したりする 2 提示されども呆然として容易に筆を下さない 3 思想散漫で不統一である 4 綴字数が多い
方	1 思考と計算とが一致して働く 2 計算も思考も正確で敏捷である 3 算術に長じてゐる	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早くないか早いか 誤りは少いか 3 算術に長じて居るか	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早い 3 算術を好み好まない	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早い 3 算術を好み好まない	1 思考も計算も遅い 2 不正確である 3 具体的でなければ分らない 4 受動的である	1 思考も計算も遅い 2 不正確である 3 具体的でなければ分らない 4 受動的である
算	1 創作品横作品何れも製作する 2 正確着實丁寧技術優秀 製作時間も早い 3 技術を完結せしめる 4 自發的に創作して行くか製作態度をよめるか	1 創作品が多い 横作品として多少の工夫を加へる 2 正確なる作品を作るか 組織なる製作をするか 製作に時間がかかるか 3 理論の方がよいか 技術が拙劣であるか 作業を中止したり作品を未完成に移つたもするか	1 創作品を作るか 横作品を作るか 2 製作の作業が完成に至らない事があるか 製作を急ぐか 巧に製作するか 3 理論より技術がよいか 理論も相當考へるか 製作が巧であるか 4 製作に氣を長く配るか 他人の世話をやくか	1 創作品を作るか 横作品を作るか 2 製作の作業が完成に至らない事があるか 製作を急ぐか 巧に製作するか 3 理論より技術がよいか 理論も相當考へるか 製作が巧であるか 4 製作に氣を長く配るか 他人の世話をやくか	1 横作品を作るか 2 粗末であるか 未完成に移るか	1 横作品を作るか 2 粗末であるか 未完成に移るか
工	1 思考と計算とが一致して働く 2 計算も思考も正確で敏捷である 3 算術に長じてゐる	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早くないか早いか 誤りは少いか 3 算術に長じて居るか	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早い 3 算術を好み好まない	1 思考正確である 思考は計算に先行しない事がある 2 計算は早い 3 算術を好み好まない	1 思考も計算も遅い 2 不正確である 3 具体的でなければ分らない 4 受動的である	1 思考も計算も遅い 2 不正確である 3 具体的でなければ分らない 4 受動的である

### 第 学年校驗兒童一覽表

種	種合型	思考型	活面型	不定型	智識最優	智識最劣	体格最優	体格最劣	性格善良	性格不良	備考
	觀察の中心長	兒童名	年齢	級	備考						
種合型	物取に對する反應速く正確明利										
思考型	物取に對する反應速く正確明利										
活面型	物取に對する反應速く粗淺誤謬										
不定型	物取に對する反應速く粗淺誤謬										
智識最優	學業成績の最優段階に属すもの										
智識最劣	學業成績の最劣段階に属すもの										
体格最優	体格検査成績の最優段階に属すもの										
体格最劣	体格検査成績の最劣段階に属すもの										
性格善良	操行考査成績の最良段階に属すもの										
性格不良	操行考査成績の最劣段階に属すもの										
備考	I 以上の種別は、模式的に3名を選擇記入する II 最優及最劣は、五段階(最優、優、中、劣、最劣)の上下二段に属すもの III 操行の兒童3名に足らざる時は人数を減じ、又は、他の種目の者と重複する可。										



法とを用ひて選定した。即ち各學年に形式的個性調査表を適用し兒童を五類型に類別し、各類型に屬する表より、更に受持教師の觀察により三名を選出した。それ等の中には智能、体格、性格等の部と重複してゐる兒童も勿論ある。

劣、体劣、性不に多きも當然と思はれる。トラホームも亦近視と同様異常型、知劣、体劣、性不に多い。他の疾病異常も關係あるものと思ふが、疾病者少きため判明しない。

(二) 優劣、善惡該當者の決定  
優劣、善惡は觀察法によりて定めた。即ち受持教師の觀察によりて、學級兒童を最優、優、中、劣、最劣の五段階の分配曲線中に該當せしめ、その最優の部に該當する者三名を選出して之を最優となし、最劣の部に該當する者三名を選出して之を最劣となした。

第二聽力、耳鼻咽喉異常と個性類型  
第二表に示せる如く全体を通じて訂聾検査扁桃腺肥大は何れにも多く、殊に扁桃腺肥大は過半数を占めてゐる。而して訂聾検査は五類型に於ては、不定型最も多く、知劣、体劣、性不も亦多い。

而して智能に於ては學業成績と平素觀察の上に立つて推定し、體質に於ては特別検査の結果と平素觀察の上に立つて推定し、性格については訓練誌と平素觀察の上に立つて推定した。(参照分配曲線の圖)

第三寄生蟲と個性類型  
寄生蟲は蛔蟲卵、鞭蟲卵何れも多數の兒童に存在し、而かも精神的方面に相當の影響をなしてゐる。殊に學業、知能方面に對する影響は、情意に對する影響よりも大なる如く思はれる。

(註) 五段階に分配せしむるのに比較法を用ひた。  
第三節 個性類型と醫學的調査  
前述せる方法によつて選出した兒童に施された醫學的調査の結果を類型別(個性五型式、智能、体格、性格)に推察することとする。

第四皮膚疾患と個性類型  
何れも疾病者少き爲め判明しない。(参照第四表)

第一視力屈折異常と個性類型  
第一表に示せる如く全体を通じて近視、トラホームは何れにも多い。而して五類型に於ては異常型最も多く融合型之に次ぐ。融合型に多きは勉強過度のためかとも思ふ。知

第五身體發育と個性類型  
第五表に明かなる如く身長、体重、胸圍、頭圍何れも略々同様な測定値を示してゐるが、五類型に於ける異常型、

第一表

田島小學校 検査ニニ日	貧數	近視	遠視	乱視	弱視	色弱異常	色弱異常	トランスム	結膜炎	瀧眼	眼瞼縁炎	フケ	視力		硝子体濁	結膜炎	麦粒腫	角膜白斑	眼瞼腫	眼瞼腫
													右	左						
融合型	32	5	1	1	1	1	2	4	2	1	1	1	1.08	1.05			1	1		
眼型	19	2	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.00	0.00	0.00	1.14	1.06			1			
活動型	30	4	0.13	0.00	0.07	0.00	0.03	0.17	0.07	0.07	0.00	0.00	1.08	1.06			0.00	0.05	0.00	0.00
不定型	17	2	0.12	0.00	0.00	0.12	0.12	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	1.02	1.04			0.02	0.00	0.00	0.00
異常型	31	7	0.22	0.00	0.10	0.00	0.00	0.26	0.10	0.00	0.00	0.00					0.00	0.00	0.00	0.00
智能異常	36	6	0.17	0.03	0.00	0.00	0.06	0.14	0.03	0.03	0.03	0.03	1.06	1.02			0.00	0.00	0.03	0.00
體能異常	25	5	0.20	0.00	0.04	0.08	0.24	0.12	0.00	0.04	0.04	0.00					0.00	0.00	0.00	0.04
體質基盤	16	1	0.06	0.00	0.13	0.00	0.19	0.00	0.13	0.06	0.00	0.00	1.10	1.11			0.00	0.00	0.00	0.00
體質基盤	12	2	0.17	0.08	0.25	0.00	0.25	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00					0.00	0.08	0.00	0.00
性格善良	21	2	0.10	0.00	0.00	0.00	0.10	0.14	0.10	0.05	0.00	0.05	1.10	1.07			0.00	0.08	0.00	0.00
性格不良	11	2	0.18	0.00	0.00	0.00	0.18	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.04	1.02			0.00	0.00	0.00	0.00



混合型	32	3	3	3	1	1	0	0	0	0	1	1	0	16	3	8
思索型	19	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11	0	2
活動型	30	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18	0	0	2
不定型	17	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	2	0
異常型	31	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	6	6	6
智能最優	36	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	3	3	4
智能最劣	26	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	5	5	6
體質最優	16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	2
體質最劣	13	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	4	4	4
性格最良	21	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	2	3	3
性格千差	11	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	2
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第二表

混合型	34	11	21
異常型	19	4	14
活動型	31	16	20
不定型	18	9	16
異常型	36	16	24
智能最優	37	9	27
智能最劣	31	15	22
體質最優	17	9	9
體質最劣	13	5	9
性格最良	21	11	16
性格千差	13	2	8
		0.15	0.62

第三表

混合型	32	0														
思索型	19	2														
活動型	30	1														
不定型	17	1														
異常型	31	0														
智能最優	36	1														
智能最劣	26	0														
體質最優	16	2														
體質最劣	13	0														
性格最良	21	1														
性格千差	11	0														
		0.00														

第四表

混合型	32	12559	3597	6250	1969	1453	5119									
思索型	19	12833	2745	6189	1994	1459	5143									
活動型	29	12601	2678	6090	1905	1454	5163									
不定型	17	12392	2515	6042	1963	1445	5142									
異常型	31	12159	2388	5942	1962	1418	5143									
智能最優	36	12579	2645	6081	1976	1451	5122									
智能最劣	25	12104	2376	6020	1949	1417	5122									
體質最優	16	13130	3080	6348	2055	1514	5296									
體質最劣	13	11948	2176	5768	1874	1387	5296									
性格最良	21	12527	2636	6089	1961	1442	5296									
性格千差	11	12520	2526	6117	1991	1475	5296									

第五表











そして結果として正しき知識の世界を構成せしめることになる。

知識界の形態の構成せられる所學校に於ける學習と共に日常生活に於ける學習によつて形成せられるものであつて、こゝに學習の効果が存することになるのである。

かゝる學習の効果が存する所學業成績であるが、吾々が學業成績として考へてゐる學習効果の内容を考察して見たとき、次の要素が内含されて居るに相違ない。

△生得的なる知的傾向(才能)

△經驗の系統化(精神構造に組織を得る)

△練習の効果

△一時的記憶

△偶然なる要素(教師の考へて居る所をあてた結果。教師の命令通りにした結果等)。

右の中で生得的なる知的傾向、經驗の系統化、練習の効果、を學習の効果、従つて學業成績として考へたい。其の他の一時的記憶や、偶然なる要素についてはのぞき度いのである。

### 第二節 學業成績の意味

兒童の學習によつて得た學業成績を得たとき吾々は知識の形成せられて居る點、習得されて居る程度の如何といふ學習の効果を表明してそれに基づいて、過去の指導の仕方を反省する。そして將來の知識界形成についての助成の方

法についても計畫するものである。

かくて要するに第一は學習によつて得られた知識の形態を表明することであり、第二は學習問題の難易、指導方法の當、不當の解釋から將來への合理的なる方法指示となるものである。

### 第三節 學業成績の表明

現存して居る知識の考査方法、そしてその學業成績の表明には確かに不十分なものがある。即ち粗笨なる知識界の表明でもあり、従つて粗大なる反省資料でもあり、將來の學習の方針を講ずるにも根柢としては不十分なるものである。

かゝる不満足なる考査をして十分ならしめやうとするものが彼の教育的測定である。教育的測定は成績の量的表明をなすもので、考査結果の採點に一つの標準を設定し、客觀的にかゝる成績は何點であると評定するものである。即ち採點者と時の異なるによつての不一致を來たさない様に同一の件を考査し、測定の目標とする所を單純化して異なる要素を排除し、目途する所を純粹にして見る。又時間、速度をも成績の一要素とするものである。この教育的測定の立場から國語、算術の實際について、田島小學校で研究したものを公刊してあるから詳細はそれに譲ることとする。

(參照 客觀的標準による國語、算術考査の實際)

しかし教育的測定が満足であるといへない。即ち第一、

基礎とする學業成績の量的表明といふことが総合的に成績を示し得るのか、即ち學業成績の形態を示すに十分であるかといへば決してさうではない。量的表明は根本的假定に過ぎないからである。

以上の如く現存してゐる成績表明そのものも不十分であり、それかとして教育的測定とても不満足なものである。

かゝる間に於て吾々は實際問題として直面して居ることであるから、現在實際存在して居るものゝ上に表明法、考査方法を改善し、その表明法を攻究することが第一問題であると思ふ。第二には現存する考査は粗笨とはいふものゝ大体の成績傾向から見るときは、誤りなき評價をなし得るものであるから捨て難いのである。

以上の二點から考を進めて、次の如き表明法をとることにして置く。

### 第四節 成績表明の實際

私は成績の表明は知識界の成態内容を見るのに都合のよい様に分割してそれを表明することが現存して居る成績表明を、現在より意義あらしめることにならうと思ふのである。しかる時に成績たる各學科の點數の傾き、子供の知識の流れを確かに知り得ることになる。若し反對に學科の總點數を以て學業の優劣を表明して見るとすれば、それは學業狀態の内容を十分ならしめ得ないもので、成績の意味を表はすことゝは出來ない。

即ち成績の自覺にも導き得ず、指導の要素も把握し得ず、學習の程度の難易も明かにし得ないことになる。従つて個性を表明し得ないことになる。例へば總點數が同じでも各學科の點數に於て平均してゐるもの、不平均して居るものがある。同じ優等生とて、學習の方面に傾きがあり、同じ劣等生とて必ずしも全体に劣つてゐるとは云へない。優等なる成績のものと比較して同一なる點をとつて居るものもある。そこで内容について觀察し易い表明をして見ることが必要になつて來ることになる。

今學業成績の全体の上に表はれる個人の傾向を大きく考へれば、(一)知的な學科の優れて居るもの、(二)技能的な學科の優れてゐるもの、二つに區別せられる。しかし尙詳細に成績を見るときは、更らに分けて考へた方が一層内容を明かにし得ることが知られる。彼の推理活動が中心機能となつて學習する學科、記憶活動が中心機能となつて學習する學科、模倣が中心機能となつて學習する學科等としてその傾向によつて、型式としての分類をなすことの實際によつては異論もあるであらうが、兎に角精神機能の中心傾向と職業指導上の便宜とによつて、小學校程度として次の如くに定めて置くこととする。

文科	讀方	修身
理科	算術	理科







學業成績と醫學的調査との關係

第一三表 (百分比)

醫學的調査	田島小學校 昭和六年(一〇一八)		尋五		尋一	
	尋一上	尋一下	尋五上	尋五下	尋一	尋五
員數	133	132	80	77		
近視	—	—	0.09	0.13	—	1.44
トラホーム	0.12	0.13	0.20	0.32	1.08	1.60
結膜炎	0.11	0.14	0.09	0.08	1.27	0.89
打聾検査	0.23	0.30	1.13	0.26	1.52	2.00
鼻加答兒	0.14	0.25	0.15	0.16	1.79	1.07
扁桃腺肥大	0.19	0.26	0.24	0.23	1.37	0.95
蛔虫卵	0.29	0.39	0.19	0.29	1.35	1.53
脊柱	0.21	0.13	0.31	0.19	0.62	0.61
榮養(甲)	0.31	0.23	0.41	0.27	1.35	1.52
体格(甲)	0.19	0.15	0.21	0.12	1.34	1.75
体格(丙)	0.12	0.08	—	—	0.67	—
頸腺腫脹	0.60	0.68	0.61	0.75	1.13	1.23
扁平足	—	—	0.41	0.43	—	1.05

第一四表(分布比)

1 Aに於て甲最も多く丙は一人もないこと、甲と乙上とがその過半数を占めて居るのは成績の優れた者は体格のよいことを物語つてゐるのである。

2 B、Cに於ては乙、乙下殊に多く又丙の存在してゐることを知る。

3 以上より見るとき、体格はその學業に關係してゐるものと云へる。即ち健全なる精神は健全なる身体に宿ることを知るのである。

第四 第二回學業と醫學的調査  
昭和六年十月十八日尋一男女二六五名、尋五男女一五七名に特別醫學的調査を施した結果と、第一學期との學業成績との關係を見た。

即ち成績を上との部と下の部との二部に分ち上、下何れに多く疾病者ありやを見ることによつて關係を見んとした。

第十三表は上、下の百分比である。之の百分比を分布比になはしたものが第十四表である。(參照第十三表第十四表)

之に依つて案するに近視、トラホームは五年に於て相當の關係を有し、結膜炎は一年に於て幾分關係を有してゐる。打聾検査は一年、五年共に正の關係をもつ。鼻加答兒は一年に於て關係を有してゐる。扁桃腺肥大も亦一年に於て關係がある。

蛔蟲卵は一年、五年共に相當の關係がある。

脊柱は何れも關係を認めない。榮養、体格は何れも關係をもつてゐる。之は當に然るべきことである。頸腺腫脹も幾分の關係はある。扁平足は殆んど關係なきが如く推せられる。

以上總括して見るに、打聾検査、蛔蟲卵、榮養、体格、等は學業に影響してゐる事が明かに知れる。

第六章 知能程度と醫學的調査

第一節 知能と學業成績

學業成績は教室に於て學習された知識状態をいふものであり、知能は學習の機能活動の如何であるかをいふものである。



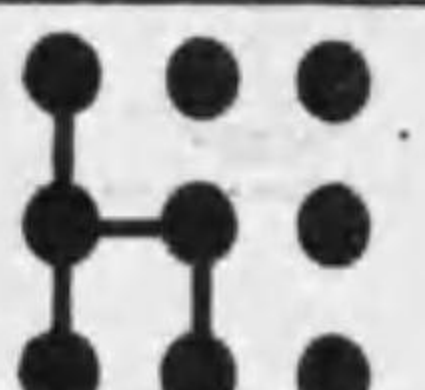

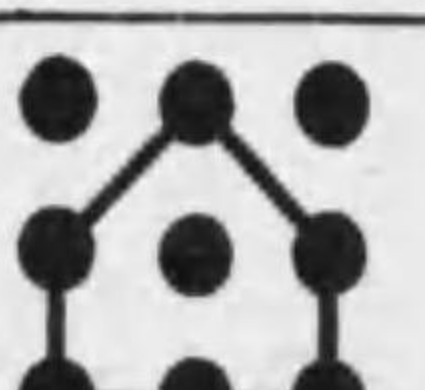

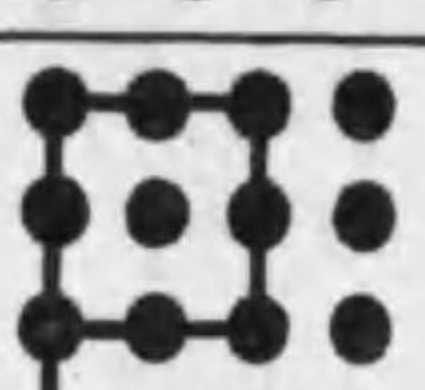

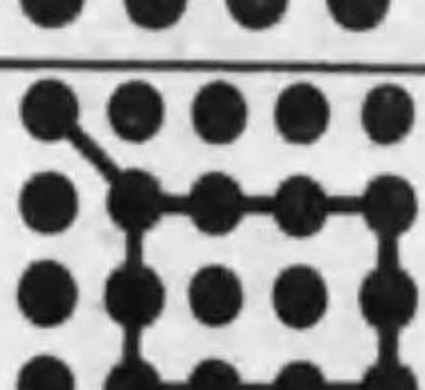
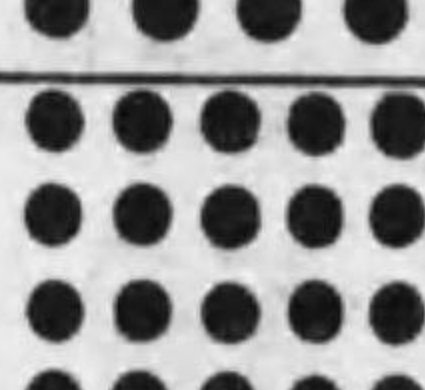
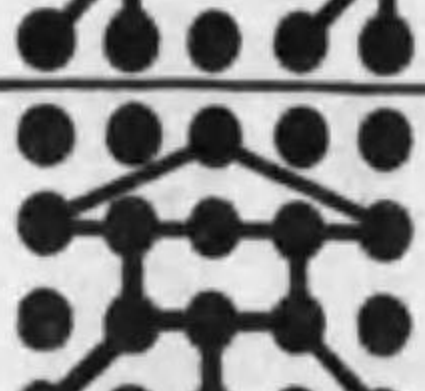
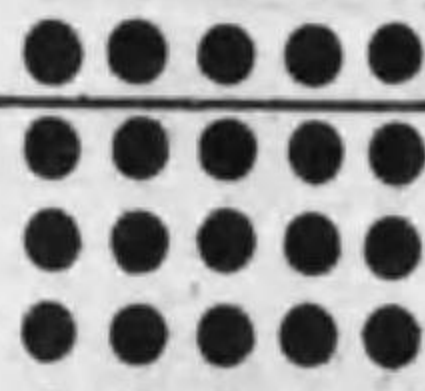

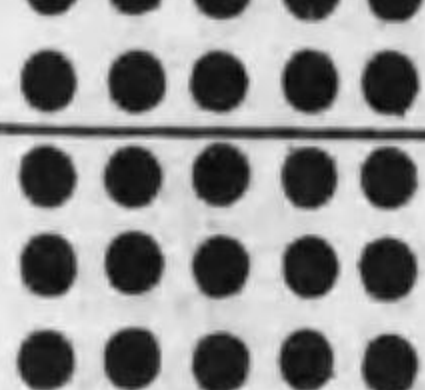
即ち學業成績は系統的に攝取された知識が重要なものであり、知能検査は系統化された活動の確かさ、廣さの如何に觸れるものである。

かく考へるならば學校成績は比較的後天的なる色彩を持つ知識形態をいひ、知能検査は知識とそれよりは機能的なるものが重要である、かくして前者は過去の學習結果を示すものであり、後者は將來への學習可能性を示すものである。

知能の高いものは同一教材の學習に於ても系統化活動完成せられるに、低い者は學習が不完全であり、系統化されないこともある。かくして學習の結果には知能と學業成績と



テ ス ト 7

レイ		
1		
2		
3		
4		
5		
6		

テスト 7

の間に一定關係のあるものである。  
従つて學業成績の優劣を定める第一條件は比較的先天的といふべき知能であるといひ得る。知能と學業成績とは大体に於て一致を有するものであることは相關を求めた時知られることである。

第二節 大伴氏知能本質説

大阪教育研究所長大伴茂氏は教育パンフレット第六卷第五十三號個性調査法に於て知能の本質を次の如く述べられてゐる。

「知能は自由奔放の姿に於て勇躍しつゝある生衝動を禁止、選擇、統制し得る力であります。知能は將來を豫知する力であります。知能は事實的試行錯誤をなるべく少くし精神的試行錯誤によつて目的を遂行し得る力であります。知能は觀念的思考を可能ならしめる力であります。知能は或場合には學習順應力と見られ、或場合には構成創作力と見られます。知能は主として判斷の形式で表現します。以上によつて吾々は、大伴氏の意味する知能の如何なるものなるかと知れ、更に知能そのもの、本質を知るに充分である。

第三節 大伴氏知能テスト

大伴氏は氏の知能本質觀からして知能テストを考案されてゐる。氏のテストに二種ある。一は團體的知能測定法であり、他の一は個別的測定法である。

吾々は時間的、努力的の經濟の立場から團體的テストを用ひた。この團體的テストは七萬人を以つて標準化され、約三十萬の兒童に適用されてゐるものである。従つてその信頼性も、適用性も相當高く彼のビネー・シモン法との相關もかなり高くあらはれてゐる。

大伴氏團體的知能テストには甲號、乙號、丙號の三種がある。乙號は繪畫のみによるテストで二學年以上共通のものである。丙號は中等學校生徒及び大人に適用されるものである。甲號は最も廣く使用され左の三種に分たれてゐる。

甲號第一種 第一學年當初、幼稚園用

甲號第二種 第二、三、四學年用

甲號第三種 第五、六及び高等科第一、二學年用

吾々は甲號のテスト用紙を用ひて測定したテスト用紙、並びにその測定法は別冊知能テスト用紙を参照され度い。

第四節 知能標準評點とその診斷

前章によつてなされた知能テストは第一、採點して得點を算出し、(採點規約あり)第二、かくして得た得點の合計即知能得點を標準評點に換算する。(換算手續は省く、参照、大伴氏著教育診斷學上卷)

大伴氏は標準を十一段階に區分し、それに各々名稱を附されてゐる。

天才 標準評點一四〇、一五〇

秀才 標準評點一二〇、一三〇
















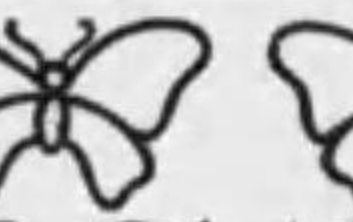
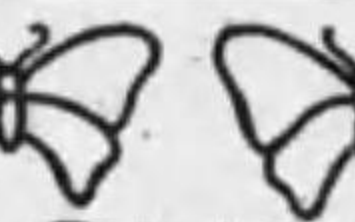
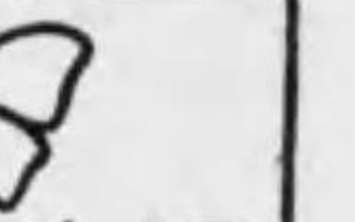

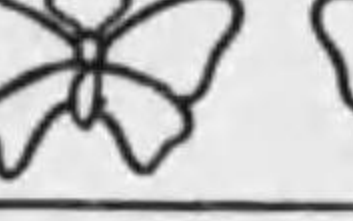
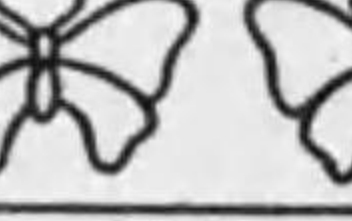




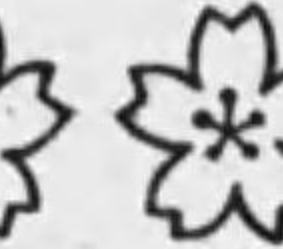




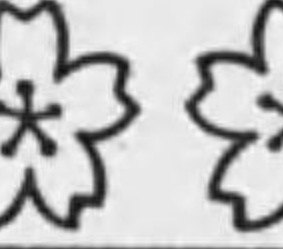
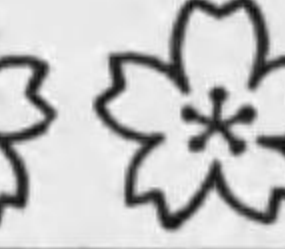

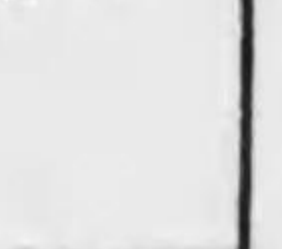





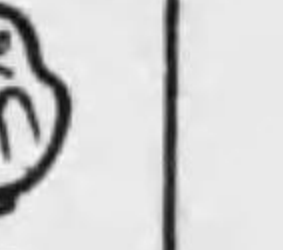


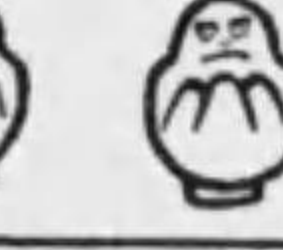

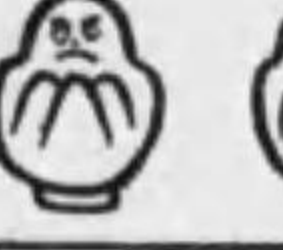





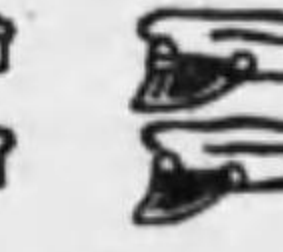



テ ス ト 5

レイ	□	○	□	○		○	□
1	○	×	○		○	×	○
2	—	+	—	+	—		—
3	○	○	○	○	○	○	
4	○	○	×	×		○	×
5	XO	OX		OX	XO	OX	XO
6	○ ○	○		○	○ ○	○	○ ○

テスト	得
5	点



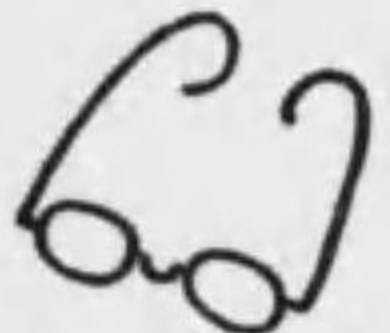
























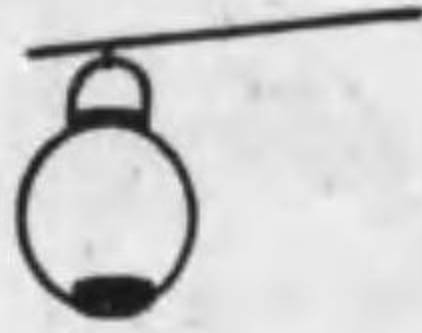
テ ス ト 6

レイ												
1												
2												
3												
4												
5												
6												

テスト	得
6	点























テ ス ト 3

レイ				
1				
2				
3				
4				
5				
6				

テスト 3 得点






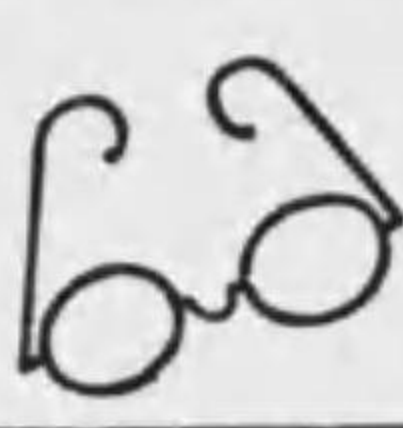







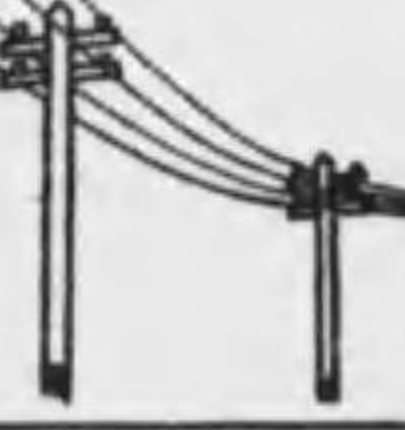












テ ス ト 4

レイ			
1			
2			
3			
4			
5			
6			

テスト 4 得点











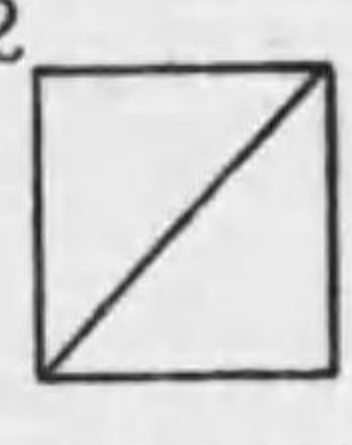
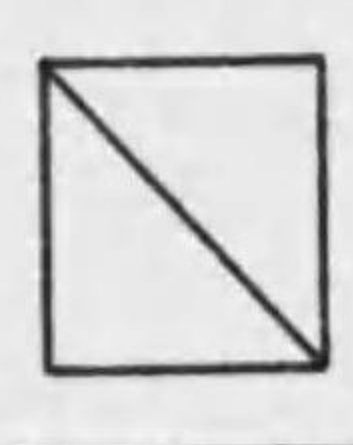
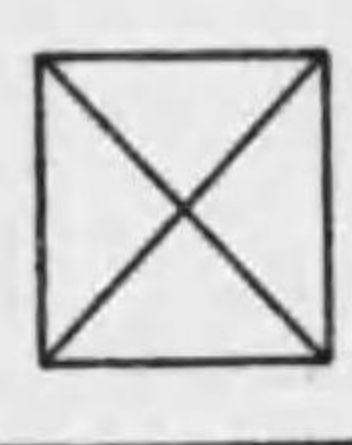
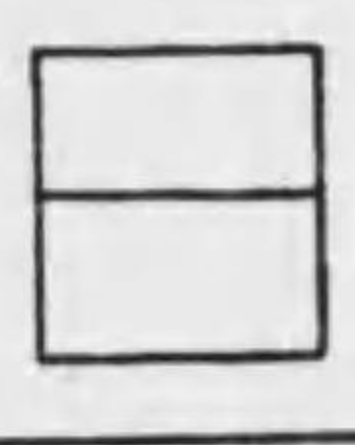
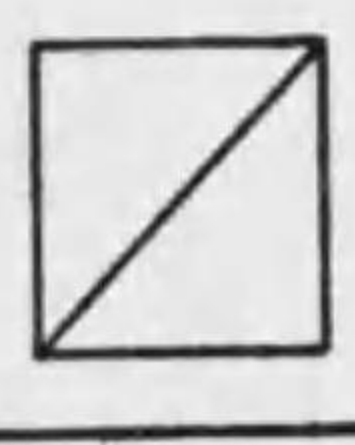






















テ ス ト 1

レ1				
1				
2				
3				
4				
5				
6				

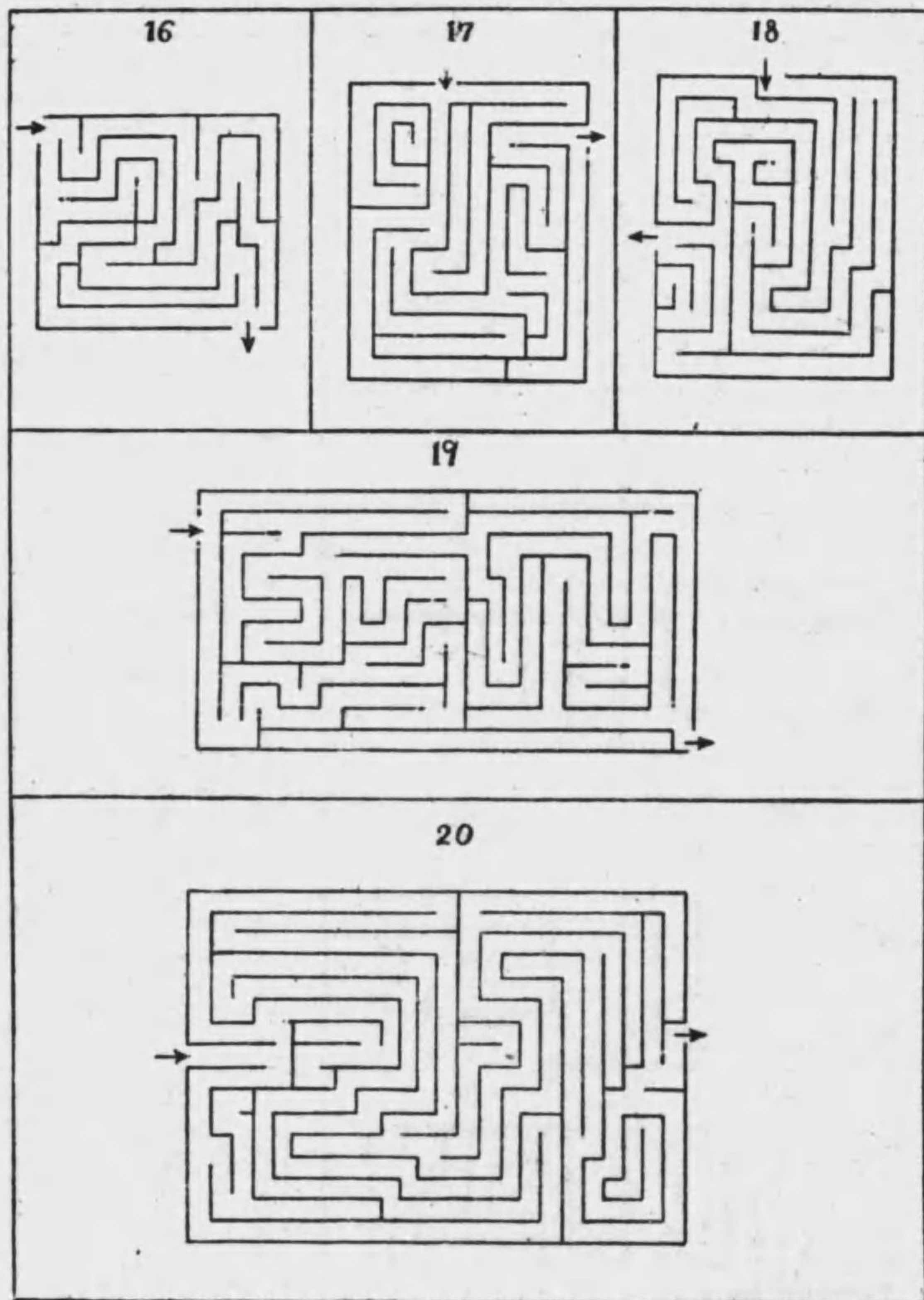
テスト 1 得点

テ ス ト 2

レ1					
1					
2					
3					
4					
5					
6					

テスト 2 得点





テスト 8 得点

発行所 大 伴 寛  
大田市東区新町二丁目五番五号  
印刷所 奥村 真一  
大田市北區新町八番 奥村大造社  
発行所 大阪教育研究所  
大田市東区新町二丁目二番二号

第一種  
知能テスト  
(甲 號)

幼稚園児・尋常科第一学年用  
無制限を設けず  
昭和五十二年二月四日  
昭和五十二年三月五日発行  
非賣品

氏名 \_\_\_\_\_ 性別 男 女  
 生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 年齢 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月  
 学年 \_\_\_\_\_ 学級 \_\_\_\_\_ 教師名 \_\_\_\_\_  
 学校名 \_\_\_\_\_  
 施行日昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

注 意

1. このテストは 幼稚園の児童 及び 尋常小學新入児童に行ふものである。
2. 十人までを一團として団体的に試みてよい。
3. 一團の児童がやり終るのを見計つて、次のテストにはいればよい。時間の制限はない。
4. テスト施行の當注意を充分のみこんで、せきたてゝやらぬやうにするのが大切である。

テ ス ト	1	2	3	4	5	6	7	合 計	標準評点
得 点									

家 庭 調 査					身 體 的 特 質													
父	母	父ノ年齢	母ノ年齢	生 計	職 業	宗 教	視 力	聴 力	鼻 腔	咽 喉	齒 牙	言 語	身 体 長	體 重	健 康	甲 腺 状 腺	既 疾 往 病	
真 義	真 義			上 中 下														病何名

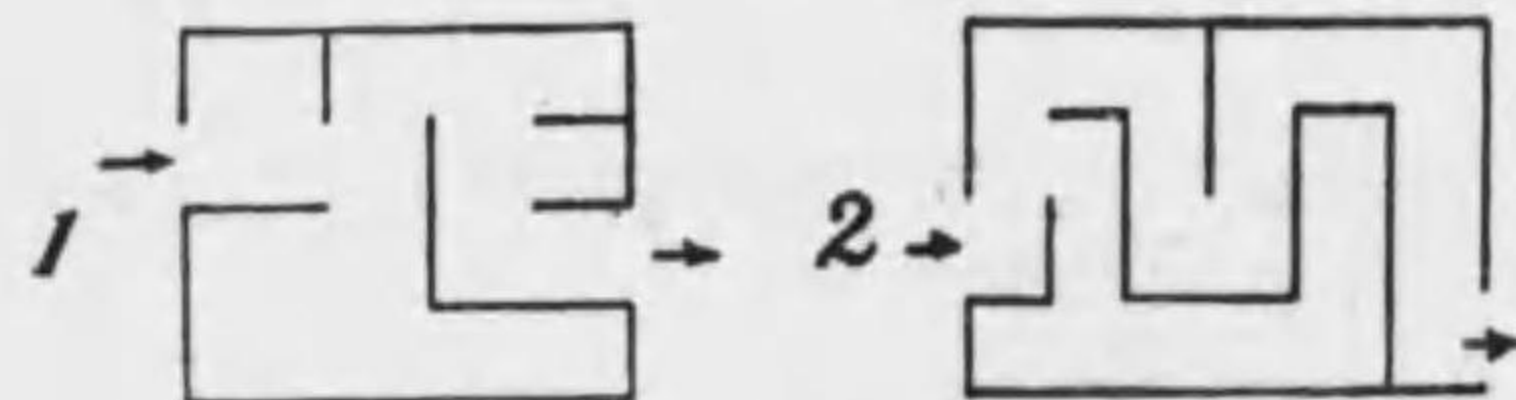


(時間 2 分)

(1)	1	2	1	2	1	□	1	2	1
(2)	1	1	2	2	1	1	□	2	1
(3)	2	2	2	1	□	1	2	2	2
(4)	3	2	1	3	2	□	3	2	1
(5)	3	3	1	1	3	3	1	□	3
(6)	3	3	1	3	3	1	3	3	□
(7)	1	2	3	□	5	6	7	8	9
(8)	1	2	3	4	1	□	3	4	1
(9)	5	5	4	4	3	3	□	2	1
(10)	6	1	5	1	4	1	□	1	2
(11)	10	□	8	7	6	5	4	3	2
(12)	2	4	□	8	10	12	14	16	18
(13)	4	3	2	1	4	□	2	1	4
(14)	1	1	3	3	5	5	7	□	9
(15)	9	9	7	□	5	5	3	3	1
(16)	9	9	9	7	□	7	5	5	5
(17)	1	2	3	5	6	7	□	10	11
(18)	3	6	9	12	□	18	21	24	27
(19)	2	4	3	□	4	6	5	7	6
(20)	2	3	5	6	8	9	□	12	14
(21)	10	1	9	1	□	1	7	1	6
(22)	10	7	9	6	8	5	□	4	6
(23)	3	2	4	□	5	4	6	5	7
(24)	1	2	4	7	11	16	□	29	37
(25)	2	4	5	10	11	□	23	46	47

テスト 8 テスト 7 得点

セツメイ ツギノ ツノ 左ノホウノ ヤノ トコロカラ 右ノホウノ ヤノ トコロヘ  
ウマク トホリスケルコトヲミナサイ。 ドノセンニモ フレテハイケマセン。  
トホリスケルコトガ デキナクレバ エンビツヲ カミカラ ハナチズニ  
マタモトヘカヘツテ ヤリナホシナサイ。



ソレナラバ ツギノ ページノ ツラ ドンナヤウニ トホリスケルコトガ デキルカ。  
エンビツデ センラカキナサイ。 ドノセンニモ フレテハイケマセン。 デキルダケ  
ハヤク シナサイ。 一ツツ ヤツテユキナサイ。

(時間 2 分 30 秒)

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15



テ ス ト 6

セツメイ 下ノ テビキヲ ヨク オボエテ オキナサイ。

手引 タクシチミ

ソレデハ ツギノ レイヲ ミナサイ。

例 1 カミ ケト セヒ クシ ムツ

コレハ ニジヂ 一クニ ナツキマス。ミナダ 五クニ アリマス。

コノ五クニノウチ ドノクニガ ニジトモ 上ノ テビキノ ナカニ アルカヲ ミツケルノデス。

カミ………ミハテビキニ アルガ カハ テビキニナイ。

ケト………ニジトモ テビキニナイ。

セヒ………ニジトモ テビキニナイ。

クシ………ニジトモ テビキニアル。

ムツ………ニジトモ テビキニナイ。

ソレデ クシガ ニジトモ テビキニ アルコトガ ワカリマシタ。ソレデハ

ソノ下ニ センラ ヒキナサイ。

オナジャウニ ツギノ モンダイヲ レンシウシナサイ。

(1) ヒチ タチ ケメ ソト ホコ

(2) フキ ツモ セヘ カフ タク

(3) クツ トケ ミチ フム ユイ

例 2 フクツ ヘトケ ムミカ ネチミ タクシ

コレハ ミジヂ 一クニ ナツキマス。ミナダ 五クニ アリマス。

コノウチ ドノ クミガ ミジトモ 上ノ テビキノ ナカニ アリマスカ。

ミツケタラ ソノ下ニ センラ ヒキナサイ。

オナジャウニ ツギノ モンダイヲ レンシウシナサイ。

(1) ハクヒ クチミ テトコ フメシ メヒホ

(2) モケタ メテト ホモヨ ミシタ ロチタ

(3) フムユ ケチフ シクタ ルウチ カルキ

オナジャウニシテ ツギノ モンダイヲ シナサイ。ワカラヌノハ トバシテユキナサイ。

(コンドハ テビキガ チガッテキマス)

(時間 2 分 30 秒)

手引 イカサヒホ

1	カミ	イニ	カサ	ヒメ	ホケ
2	ケル	ホイ	マキ	クテ	ロシ
3	ケコ	イサ	マホ	セシ	ヒキ
4	アヒ	ラコ	ヒサ	ミカ	ユセ
5	ウカ	サホ	ノネ	トヘ	ヤワ
6	エケ	スチ	井ク	ホセ	ヒカ
7	コス	ニカ	ワン	ホイ	オヌ
8	サヒ	ムメ	タヒ	フケ	ソト
9	カク	ミチ	イホ	スチ	ノケ
10	ハム	ヒミ	ムス	ウク	イホ
11	メテ	イサ	トキ	クミ	ヒス
12	フ井	ツチ	ヘケ	メチ	ヒカ
13	ヤユ	クミ	カヒ	テケ	ハツ
14	カホイ	ソトネ	ケツシ	マケキ	スチニ
15	ウトセ	ヒサト	スクツ	トオヨ	サイヒ
16	イシチ	ホカヒ	カヒノ	セメレ	サタホ
17	サカア	チヌフ	ヒラヤ	イケソ	ホカサ
18	ヒイサ	サコモ	ユムフ	ツセコ	スアナ
19	メチケ	クチフ	ホカイ	トテク	フ井ユ
20	ホイカ	ムフテ	トモケ	シチフ	カキス
21	ヘメツ	クツ井	サカイ	トモイ	カキシ
22	フケチ	シカキ	メチヌ	イサホ	ツテト
23	ヒカホ	フムユ	ケラシ	トテミ	フ井キ
24	ザヒイ	ムユヤ	ラリノ	レロナ	ヘチル
25	ソツネ	ツユケ	ホカヒ	ナラム	ウイノ

テスト 7

セツメイ ツギニ ナラベテアル スクジヲ ヨク ミラゴラン。

2 1 2 1 2 □ 2 1 2

□ノトコロヘ1ヲ イレテ チョウド

2 1 2 1 2 1 2 1 2

トナルデセウ。

ソレデハ ツギノ モンダイノ □ノナカヘ チョウド ツゴクヨク

ナルヨクニ スクジヲ イレナサイ。

レンシウ

(1) 3 1 3 1 3 □ 3 1 3

(2) 4 2 4 2 □ 2 4 2 4

(3) 5 5 1 1 5 5 □ 1 5

(4) 1 5 1 5 □ 5 1 5 1

オナジャウニ ツギノ モンダイヲ ヤリナサイ。ワカラヌノハ トバシテユキナサイ。



(時間 2 分)

手ヲ  
引キ

1 2 3  
4 5 6

テ ス ト 5

テスト 4 得点

レンシウ ツギノ スクキノ ウチダ ーバン スクナイ スウジヲ (ツケテ、  
ソノ下へ センヲ ヒキナナイ。

- (1) 7 2 3 6 9  
 (2) 6 7 5 9 8  
 (3) 11 15 10 9 17  
 (4) 15 14 17 16 18

同ジヤウニ ツギノ モンダイヲ ヤツテゴラン。  
ワカラヌノハ トバシテユキナサイ。

(時間 2 分)

(1)	9	6	3	7	5
(2)	6	5	8	4	7
(3)	7	6	8	3	2
(4)	7	5	6	8	9
(5)	7	9	8	6	5
(6)	12	11	13	18	16
(7)	17	15	12	13	14
(8)	23	25	27	22	21
(9)	37	44	30	48	51
(10)	96	27	31	62	53
(11)	125	145	165	115	185
(12)	288	488	388	588	788
(13)	335	332	339	338	337
(14)	472	462	435	491	419
(15)	562	276	373	693	703
(16)	2562	2329	2463	2831	2591
(17)	5627	6827	2927	7327	9927
(18)	8319	7391	6732	5373	4676
(19)	2129	3731	8624	9161	2736
(20)	13292	14627	11629	17634	19161
(21)	27656	27925	27813	27119	27011
(22)	39658	12377	53102	71629	37621
(23)	43290	56789	66001	98293	56276
(24)	10001	10201	10711	10901	10800
(25)	52116	27608	90012	37089	62791

テスト 5 得点

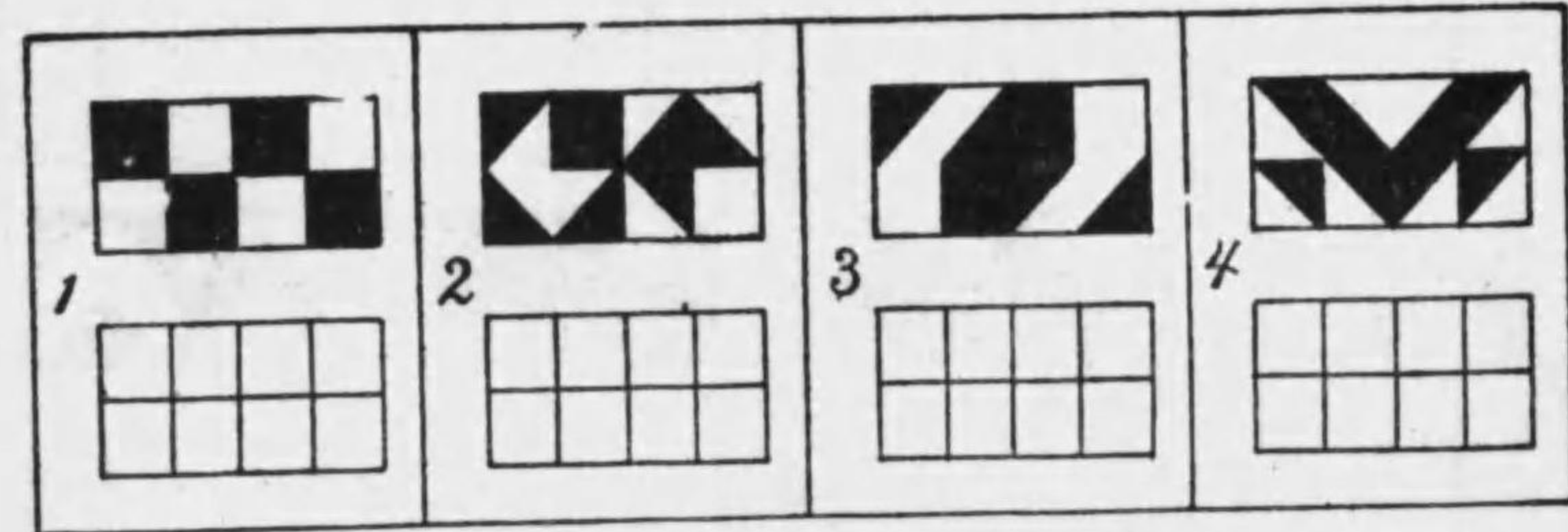


(時間 2 分)

- |    |        |         |         |         |     |     |
|----|--------|---------|---------|---------|-----|-----|
| 1  | 犬ハ     | ホエ      | マスカ     | ハイ      | イイエ |     |
| 2  | ユキハ    | シロイ     | デスカ     | ハイ      | イイエ |     |
| 3  | 人ハ     | 石ヲ      | タベマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 4  | 本ニ     | 手ガ      | アリマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 5  | ナツハ    | サムイ     | デスカ     | ハイ      | イイエ |     |
| 6  | クリ     | ニハ      | イガガ     | アリマスカ   | ハイ  | イイエ |
| 7  | 一尺ハ    | 一寸ヨリモ   | ナガイデスカ  | ハイ      | イイエ |     |
| 8  | 四月ノ    | ツギハ     | 三月デスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 9  | 竹ニハ    | フシガ     | アリマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 10 | 一年ハ    | 十二カ月    | デスカ     | ハイ      | イイエ |     |
| 11 | 8ハ6    | ヨリモ     | 大キイ     | デスカ     | ハイ  | イイエ |
| 12 | ウミハ    | イケヨリモ   | 大キイ     | デスカ     | ハイ  | イイエ |
| 13 | 一月一日ハ  | トシノ     | ハジメ     | デスカ     | ハイ  | イイエ |
| 14 | ダレデモ   | メガネヲ    | カケテ     | 井マスカ    | ハイ  | イイエ |
| 15 | ウメノ    | 花ハ      | 秋ニ      | サキマスカ   | ハイ  | イイエ |
| 16 | 13ハ    | 一ダースヨリモ | オホイデスカ  | ハイ      | イイエ |     |
| 17 | 人ハ     | ダレデモ    | ゲタヲ     | ハイテ井マスカ | ハイ  | イイエ |
| 18 | タタミハ   | スギカハデ   | ツクリマスカ  | ハイ      | イイエ |     |
| 19 | 都會ハ    | 田舎ヨリモ   | サミシイデスカ | ハイ      | イイエ |     |
| 20 | 滿洲ハ    | 西洋ニ     | アリマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 21 | 火鉢ニハ   | イツモ     | 火ガ      | アリマスカ   | ハイ  | イイエ |
| 22 | 國會議事堂ハ | 京都ニ     | アリマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 23 | 人造絹ハ   | マユカラ    | トリマスカ   | ハイ      | イイエ |     |
| 24 | 日本人ハ   | 誰デモ     | 英語ヲ     | ハナシマスカ  | ハイ  | イイエ |

テスト 3

テスト 4 レンシウ



ソレデハ ツギノ モンダイヲ オナジヤウニ ヤツテゴラン。



(時間1分30秒)

1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						

テスト 2

### テスト 3

セツメイ ツギノ モンダイヲ ヨクヨクデ ツレガ タクシイト オモツタ  
 ラ ハイノ 下へ センヲ ヒキナサイ。 モシ チガツテ井タラ  
 イイエノ下へ センヲ ヒキナサイ。

例 1 ミミデ ミマスカ.....ハイ イイエ

例 2 ミズハ ナガレマスカ.....ハイ イイエ

ツギノ ページノ モンダイヲ オナシヤウニ ヤツテゴラン。ワカラスノ  
 ハ トバシテユキナサイ。



大 作 院  
大塚教育研究所  
大塚教育研究所  
大塚教育研究所  
大塚教育研究所

第 二 種  
知 能 テ ス ト

専科第二・三・四学年用  
知能検査を要せず  
昭和六年一月五日  
昭和六年一月十日  
非 賣 品

(甲 組)

氏 名 \_\_\_\_\_ 性別 男 女  
生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 年 齡 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月  
學 年 \_\_\_\_\_ 學 級 \_\_\_\_\_ 教師名 \_\_\_\_\_

學校名 \_\_\_\_\_  
施行日昭和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

注 意

- 1, ナニヲ スルカトイフコトヲ, ロク トクシシ シテオカナクテハ ナラマセン。
- 2, ワタクシガ ハジメ トイフマデ, ハジメテハ イクマセン。
- 3, マチガハスヤウニ, プキルダク, ハヤク オヤラナサイ。
- 4, ワタクシガ ヤメ トイヘバ, スグ ヤメナサイ。
- 5, ワタクシノ アイヅノ アシマデ, ツギノ ページヲ ヒライテハ イクマセン。

テスト	1	2	3	4	5	6	7	8	合計	標準評点
得 点										

家 庭 調 査				身 體 的 特 質										
父	母	父ノ年齢	母ノ年齢	視力	聴力	鼻腔	咽喉	歯牙	官能	身長	体重	健康	甲状腺	既往病
職業	職業	上中下	上中下											病何名

テ ス ト 1



ヒダリノ ホウノ エヲ ミテゴラン。カホニ タラヌトコロガ  
アムデセウ。タラヌトコロニ マルヲ ツケナサイ。

ソレデハ, ツギノ ページニアル エニハ, ドレニモ ミナ タラヌ トコロガ アリ  
マス。  
タラヌトコロヲ ミツケテラ, ソノトコロヘ マルヲ ツケナサイ。ワカラヌノハ ト  
バシテ ユキナサイ。

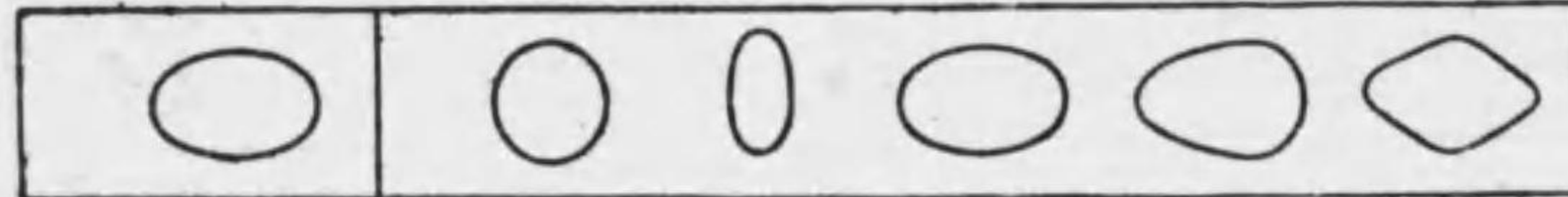
(時 間 30 秒)



テスト 1 得点 \_\_\_\_\_

テ ス ト 2

セツメイ ツギノ レイヲ ミナサイ。左ノ ハシノ ツト オナジモノヲ 右ノ  
ホウノ 五ツノ クチカラ ナガシ出レテ, ミツケテラ ソレニ マルヲ  
ツケナサイ。



ツギノ ページ ノラ オナジヤウニ ヤツテ ゴラン。  
ワカラヌノハ トバシテユキナサイ。



普通標準評點九〇、一〇〇、一一〇  
 鈍才標準評點 七〇、八〇  
 痴愚標準評點 五〇、六〇

第五節 知能と疾病異常との關係

吾々は相關の確實性を得るため前節に述べた十一段階を更に三つの類群に區分してそれと疾病異常との關係を見た。

第一 知能類群

類群	標準評點	品等
A	一四〇、一三〇、一二〇	秀才、天才の下
B	一一〇、一〇〇、九〇	普通
C	八〇、七〇、六〇	鈍才、痴愚

第二 學年検査兒童數と類群

類群	A	B	C
1	8	11	5
2	5	13	4
3	1	11	6
4	1	16	4
5	4	14	5
6	3	16	5
計	二二	八一	二九

第三 知能類群と疾病異常 (全体的關係)

	眼	耳	鼻	扁桃腺	寄生蟲
A	二三 5%	一四 3%	五 1%	三六 8%	五 1%
B	一六 13%	一七 14%	一 2%	二五 20%	一〇 8%
C	二八 8%	二四 7%	二四 7%	一〇 3%	三四 10%

1 眼については近、遠、亂、弱視について關係を見たのである。之に依れば知能の劣れる者に眼疾者多きを知るのである。又比較的知能優れたる者に多きは、勉學のためかとも思はれる。

2 耳疾はA、B、Cの順となり、知能劣れる者に耳疾が極めて多い。

3 鼻疾はBに比較的少く、Cに極めて多い。これも知能との關係を示すものと思はれる。

4 扁桃腺肥大症は特別大なるもの、大なるものについて見たのであるが、眼疾、耳疾、鼻疾の結果とは逆の關係を示し、C、B、Aの順序に高くなつてゐる。

第五 知能と齒科

A類群二十二名、B類群七十二名、C類群二十三名の齒科各方面との關係を表示すれば左の各表の如くなる。

類群	A	B	C
甲	10 四五%	37 五一%	14 六一%
乙	5 二三%	17 二四%	5 二二%
丙	7 三二%	18 三五%	5 一七%

ウシの状態と知能

類群	A	B	C
甲	7 三二%	34 四七%	11 四八%
乙	12 五五%	34 四七%	8 三五%
丙	3 一三%	5 六%	4 一七%

咀嚼能力と知能

類群	A	B	C
甲	6 二七%	33 四六%	9 三九%
乙	12 五五%	28 三九%	7 三〇、五%
丙	4 一八%	11 一五%	7 三〇、五%

咬合 (ハナラビ) と知能

5 寄生蟲は卵數五十以上の者について見たもので、A、B、Cの順に多く、Cは非常に多い。  
 6 以上を總括して見るのに、大体A類群即知能高きものに疾病者少く、C類群即知能低き者に疾病者の多きことを知るのである。  
 7 ことに於て吾々は知能と疾病異常との關係即疾病異常が知能を低下せしめてゐることを知るのである。

第四 知能と頸腺腫脹

A類群二十二名、B類群八十一名、C類群二十九名の頸腺腫脹との關係を表示せば次の如くなる。

類群	A	B	C
1	8	6	4
2	4	10	1
3	1	9	3
4	0	6	2
5	4	10	4
6	0	7	3
計	17 七七%	48 五九%	17 五九%

右表により次のことが知られる。

1 A、B、C全体を通じて疾病者の數非常に多く、何れも過半数を占めてゐることは注意すべきことである。  
 2 Aに最も多く、B、Cの順に少い。  
 3 Aの如き知能の優れたるものに多く知能低き者はど少きは面白い、且つ注意すべき現象なりと思ふ。



表二十二第

	A	B	C
甲	8 三六%	28 三九%	9 三九%
乙	14 六四%	42 五八%	13 五七%
丙	0	2 三%	1 四%

表三十二第

	A	B	C
甲	17 七七%	43 六〇%	16 七六%
乙	5 二三%	28 三九%	5 二四%
丙	0	1 一%	0

齒齦（ハダキ）と知能

1 全体を通算したところでは、A、B、C 類群とその齒齦検査成績との間に判然たる相関々係なきが如きも、大体に於て上級學年には成績の甲なるもの多く、下學年に至るに従つて乙と丙との割合多き様である。  
2 又全學年を通じて乙、丙の成績よりも甲成績の多いことも知られるのである。  
3 知能低きB、Cに比較的甲成績多く、知能高きA類群に比較的少いのも面白い。

第六 知能と体格

A 類群二十一名、B 類群七十五名、C 類群二十四名の体

格と知能との關係は左表の通りである。

表四十二第

	22 A	75 B	24 C
甲	6 二七%	14 一九%	5 二一%
乙上	5 二三%	16 二一%	5 二一%
乙	10 四五%	32 四三%	9 三八%
乙下	1 五%	10 一三%	3 一三%
丙	0	3 四%	2 七%

1 右表により、A 類群に甲体格者多くして丙一人も存しない。  
2 A 類群は甲と乙上とが半數を占めてゐる。知能優秀なる者の中には体格の優れてゐる者多きを知るのである。  
3 C 類群には甲少く、A、B、C 三者を比較してC類群に丙が最も多いのである。  
以上によりて見るに知能と醫學的調査との間に關係あるを知るのである。即ち、疾病異常が知能低下の因をなしてゐることを知るに足るのである。  
従つて知能を一大要素とする學業成績の向上についてはその因となる疾病を治療することが急務であり、そうした特別教育が必要である。

第七 性能検査と醫學的調査

第一節 安藤氏性能検査

兒童性能相談所長安藤謙次郎氏（東京府下荏原町中延四

四八）は性能検査に於て知覺、知能、意志動作、力量の四方面を検されてゐる。今その各々について簡單なる説明をなさうと思ふ。

第一、知 覺

指頭知覺、重量知覺、音調知覺、明暗知覺、距離知覺の五方面からなつてゐる。本調査に於ては明暗知覺のみを實施した。

明暗知覺は適性検査實況1に示す如くカードを用ひてなすのである。斜紙に並べられた基準カードと同一濃度の照合カードを基準カードの右側に並べ、その終了までの時間と誤差とによつて成績を出すのである。

第二、知 能

知能は次の如く各方面に細分されてゐる。

1、認識注意 圖形記憶 記憶検査器による。  
文字記憶 (参照寫真2)

2、量數判斷 大小辨別 カード照合実験器による。  
計數速度 (参照寫真1)

3、關係判斷 從屬關係 構圖關係  
反對關係 種類關係  
部全關係 (参照寫真1)

4、構成能 圖形構成 二 卡片照合実験器による。  
形体構成 (参照寫真1)

5、學習能 單一反應 學習反應検査器による。  
圖形翻譯 (参照寫真3)

6 作業能、 色彩分類 卡片分類実験器による。  
圖形分類 指頭構造 指頭作業検査器による。  
(参照寫真4)

第三、意志動作 1、指頭作業 右手 指頭検査器による。  
左手

2、共應動作 零度 共應動作検査器による。  
二十度 (参照寫真5)

3、順應動作 一回 運轉動作検査器による。  
二回 (参照寫真6)

4、直立安定 前後動 直立安定度検査器による。  
左右動 (参照寫真7)

第四、力量 前後動 直立安定度検査器による。  
左右動 (参照寫真7)



摘要		分	
姓名	鈴〇仁〇	知	指頭知覚 1
年齢	九年八月	覺	重量知覚 2
學校名			音調知覚 3
學年別	第四學年 未修級		明暗知覚 4 $S + (N \times 3)$ ( 85 ) +
検査日	昭和五年八月十八日ヨリ 昭和五年八月二十日マデ	認識注意	距離知覚 5
検査所			圖形記憶 6 $R_1 + R_2 + R_3$ ( 9 ) +
検査者		量數判断	文字記憶 7 $R_1 + R_2 + R_3$ ( ) +
檢定者			大小辨別 8 $S + (N \times 3)$ ( 55 ) +
備考		關係判断	計數速度 9 $S + (N \times 3)$ ( 89 ) +
	67 87 異常型. 智能最劣. 成績劣 (人物) 低層の家庭事情あり		構圖關係 10 $S + (E \times 3)$ ( 42 ) +
		構成能	從屬關係 11 $S + (E \times 3)$ ( 30 ) +
			反對關係 12 $S + (E \times 3)$ ( ) +
			種類關係 13 $S + (E \times 3)$ ( ) +
			部全關係 14 $S + (E \times 3)$ ( ) +
		學習能	圖形構成1 15 $S + (E \times 6)$ ( 97 ) +
			圖形構成2 16 $S + (E \times 6)$ ( 114 ) +
			形体構成 17 $S + (E \times 6)$ ( 90 ) +
		作業能	單一反應 18 $S + (E \times 3)$ ( 48 ) +
			圖形翻譯 19 $S + (E \times 3)$ ( 146 ) +
			種類翻譯 20 $S + (E \times 3)$ ( 85 ) +
		意志	色彩分類 21 S
			圖形分類 22 S
		動作	指頭構圖 23 $S + (L \times 3)$ ( 280 ) +
			指頭作業 右手 24 S
			左手 25 S
			0° 26 $S + (E \times 6)$ ( 87 ) +
			20° 27 $S + (E \times 6)$ ( 202 ) +
			45° 28 $S + (E \times 6)$ ( 92 ) +
			1 29 $(C_1 + C_2) \times \frac{1}{2}$ (( 16 ) +
			2 30 $(C_1 + C_2) \times \frac{1}{2}$ (( 25 ) +
			3 31 $(C_1 + C_2) \times \frac{1}{2}$ (( 26 ) +
			前後動 32 O
			左右動 33 A
			動搖面積 34 $\sqrt{O \times A}$ $\sqrt{(192)}$
		力量	右手握力 35 K
			左手握力 36 K

安藤研究所

R.....的中數  
S.....秒數  
N.....番號差數ノ合算  
C.....接觸數  
E.....誤差數ノ合算  
L.....不足數  
O.....前後動(耗)  
A.....左右動(耗)  
K.....瓦

析	綜										合
$\{(4) \times 3\} = (77)$	110	100	90	80	70	60	50	40	30		
$(4) + (6) = (19)$	15		20		25		30		35		
$( ) + ( ) = ( )$	12		15		20		25		28		
$\{(0) \times 3\} = (55)$	110	100	90	80	70	60	50	40	30		
$\{(2) \times 3\} = (75)$	110	100	90	80	70	60	50	40	30		
$\{(0) \times 3\} = (42)$	70	60	50		40	30	20	15			
$\{(0) \times 3\} = (30)$	55	50		40	35	30		20	15		
$\{( ) \times 3\} = ( / )$	90	80	70	60	55	50	40	30	20		
$\{( ) \times 3\} = ( / )$	45		40		30				20		
$\{( ) \times 3\} = ( / )$	70	60	50		40	30	20	15			
$\{(0) \times 6\} = (97)$	95	90	80	70	60	50	40	30	20		
$\{(4) \times 6\} = (138)$	130	120	110	100	90	80	70	60	50	40	30
$\{(3) \times 6\} = (108)$	220	210	200	190	180	170	160	150	140	130	120
$\{(1) \times 3\} = (51)$	80		70		60	55	50		40		30
$\{(0) \times 3\} = (146)$	140	130	120	110	100	90	80	70	60	50	
$\{(1) \times 3\} = (88)$	140	130	120	110	100	90	80	70	60		
$(121)$	120	110	100	90	80	70	60	50			
$(112)$	120	110	100	90	80	70	60	50			
$\{(0) \times 3\} = (280)$	270	260	250	240	230	220	210	200	190	180	170
$(77)$	100		90		80		70	65			
$(103)$	110		100		90		80	70			
$\{(5) \times 6\} = (85)$	90	80	70	60	50	40	30	20			
$\{(13) \times 6\} = (280)$	240	230	220	210	200	190	180	170	160	150	140
$\{(12) \times 6\} = (114)$	200	190	180	170	160	150	140	130	120	110	100
$(21) \times \frac{1}{2} = (19)$	20	25	20		15		10		5		0
$(37) \times \frac{1}{2} = (31)$	20	25	20		15		10		5		0
$(27) \times \frac{1}{2} = (27)$	20		15		10		5		0		
$(182)$	160	150	140	130	120	110	100	90	80	70	60
$(120)$	110	100	90	80	70	60	50	40	30		
$\times (120) = (123)$	80	70	60	50	45	40	30	20	10		
$(114)$	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
$(12.5)$	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18



適性



7



5



6

- 1 判斷・構成能
- 2 記憶・握力
- 3 學習能
- 4 作業能・指頭作業
- 5 共應動作
- 6 順應動作
- 7 直立安定

適性検査法ノ詳細説明ハ 廣島文理科  
大學心理學教室編著 兒童研究所配發  
「昭和五年十月 中文版發行」ニ掲載

安藤研究所  
東京府下花房町中延四丁目  
電話區番二一四〇番

検査實況



3



1



4



2



握力計によりて左右の力量を測定する。

(参照適性検査実況の寫眞、個性調査用紙適性検査の部)

第二節 性能検査と醫學的調査

吾々の學校に於ては昭和六年二月二十三日尋常科第二二年學男女組六十七名に前節の安藤氏性能検査を實施した。而して六十七名の兒童を第二學期の成績をもつて上の部と下の部との二つに分類し、上と下の二部について各性能と醫學的調査との關係を比較討論して見た。

第二十五表は性能検査成績と醫學的調査との關係を百分比で示したものである。第二十六表は第二十五表の分布比を示すものである。分布比は体格榮養は下にて上を除し、其の他は上にて下を除したるものである。

第二十七表及び第二十八表は荏原町宮前小學校第六學年の昭和六年九月に行ひたる性能検査と体格等との關係を示すもので大体の傾向は前者と可なり相似てゐる。

此の第二十六表と第二十八表とによつて性能検査と醫學的調査とを案するに、綜合成績では近視「トラホーム」、蛔虫卵、榮養、体格、咬合、齒齦、清潔度の八項が關係を有する。之は當然かくあるべきものと思はれる。但しムシ齒の状態が逆の關係になつて居るのは、低學年、年少であるためかと思はれる。

知能については近視が抜群に正の關係をもつてゐる外に「トラホーム」、蛔虫卵、体格の三者が相當の關係をもつ

てゐる。

意志動作になると、近視「トラホーム」、榮養の二者が主として關係してゐるのみである。これは意志動作が能力といふよりも性格の意味が多分に含まれて來るからであらう。

明暗辨別は蛔虫卵と榮養とに特に著しく關係してゐる。是は古來言ひ傳へられたる榮養が明暗に影響するといふ事實によく一致する。

認識注意は近視と「トラホーム」とに非常な關係を示してゐる。第二十八表にも斯ういふ風に現はれてゐる。蓋し外界を認識注意することは眼の良いといふ事が最も重大な前提であるといふことが窺はれる。

大小辨別は「トラホーム」「アデノイド」榮養、体格に關係をもつ。この榮養、体格に關係をもつことは何が故であるかといふに、この機能は見當の良否に關係を有する。つまり活動の良否と因果關係を有すると見るのが至當であらう。此の事は第二十八表に見る作業能と体格とが關係が深いことと同じ意味をもつてゐる。

構畫關係は「トラホーム」、疝疝検査、榮養、体格、從屬關係は近視「トラホーム」疝疝検査、扁桃腺肥大、蛔虫卵、榮養、体格に關係をもつ。この二つは兒童に對する判斷の検査であるから身体的諸機能の缺陷が直ちに反影するものと考へられる。但し第二十八表によつて見るに關係判

第二十五表 性能検査成績と醫學的調査との關係(百分比)

項目	近視		トラホーム		蛔虫卵		榮養		体格		咬合		齒齦		清潔度	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
総合	0.33	0.34	0.32	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31	0.31
知能	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
意志動作	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
明暗辨別	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
認識注意	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
大小辨別	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
構畫關係	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
從屬關係	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
單足應	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
共應動作	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
反應動作	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
意志決定	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22
握力	0.15	0.26	0.09	0.31	0.18	0.24	0.19	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22	0.22



第二十六表 性能検査成績と醫學的調査との関係(百分比)

第二學年	近視	与一人	耳聾検査	扁桃腺肥大	了子一人	蛔虫卵	栄養不足	体格(中)	頸部腫脹	公齒拔	三齒拔	咬合(中)	咀嚼能力	齒齦(中)	清潔検査
合計	173	193	0.58	0.98	0.87	2.33	1.50	1.23	0.84	0.69	1.18	1.56	100	1.26	1.39
男	144	181	0.84	1.13	0.68	1.86	1.10	0.68							
女	29	12													
差支動作	1.33	1.50	0.93	0.94	0.95	1.11	1.41	1.06	0.91						
明暗辨別	1.16	0.96	1.27	0.97	0.63	3.95	1.39	0.89	0.97						
認識検査	3.98	4.22	0.65	1.34	0.65	1.15	0.91	1.00							
大小辨別	1.00	1.93	1.67	1.13	1.33	0.73	1.51	1.88							
複線關係	0.75	1.44	1.67	1.19	1.07	0.82	2.14	1.88							
從屬關係	2.14	3.36	2.50	1.29	1.00	2.23	1.19	1.87							
單一反應	1.73	1.14	1.07	0.97	1.09	1.67	0.83	0.96							
反應動作	1.00	0.88	1.15	0.93	0.47	0.31	1.17	0.97							
垂直安定	1.33	1.44	0.58	0.96	1.07	1.67	0.86	1.34							
握力	1.56	1.75	0.97	0.97	0.97	1.85	1.68	1.06							
	2.15	0.96	1.88	0.97	0.63	0.66	1.39	1.50							

第二十七表 性能検査成績と醫學的調査との関係(百分比)

第六學年	近視	体格(中)	栄養不足	扁桃腺肥大
合計	71	0.20	0.20	0.34
男	76	0.32	0.31	0.33
女	9	0.26	0.29	0.32
差支動作	73	0.25	0.22	0.36
明暗辨別	73	0.32	0.27	0.36
認識検査	73	0.21	0.23	0.32
大小辨別	67	0.25	0.27	0.32
複線關係	99	0.27	0.27	0.32
從屬關係	97	0.26	0.28	0.32
單一反應	69	0.26	0.25	0.32
反應動作	73	0.25	0.24	0.32
垂直安定	72	0.31	0.24	0.32
握力	74	0.22	0.28	0.32
	68	0.23	0.25	0.32
	78	0.28	0.26	0.32
	78	0.19	0.24	0.32
	68	0.34	0.26	0.32
	73	0.26	0.38	0.32
	93	0.26	0.38	0.32
	73	0.26	0.38	0.32

第二十八表 性能検査成績と醫學的調査との関係(百分比)

第六學年	近視	体格(中)	栄養不足	扁桃腺肥大
合計	160	0.65	1.09	0.97
男	160	0.96	1.00	1.13
女	0			
差支動作	160	1.32	1.00	1.13
明暗辨別	0.66	1.19	1.03	0.89
認識検査	108	0.89		
大小辨別	108	0.89		
複線關係	100	1.22		
從屬關係	104	2.22		
單一反應	0.91	0.86		
反應動作	122	0.96		
垂直安定	179	0.92		
握力	100	3.17		



東京文理科大學 田中寛一指導  
教授文學博士

茗溪會研究部著

# 算術計算検査 (甲類 1)

検査年月日 昭和 年 月 日  
 学校名 \_\_\_\_\_ 小学校  
 学年 第 年 組 男女  
 氏名 \_\_\_\_\_  
 生年月日 \_\_\_\_\_ 年 月 日 生  
 満 年 月

### 注意

1. エンピツは二本ロウイシナライ。
2. マチガハヌキウニ草クレナナイ。
3. カツタニ紙ワアケタハイケマセン。
4. デキナイノハ、コレヲオイト次へ進ミナナイ。
5. 「コタへ」ハ一ツアレバヨク、トクベツニハナシ  
 ナ書カナクテモヨシイ。

算術計算検査 (甲類 1)

昭和三年十二月八日印刷  
 昭和三年十二月二十二日發行

發行所 茗溪會研究部  
 東京市神田區三丁十七番地  
 電話 三三三三

印刷所 東京市神田區三丁十七番地  
 電話 三三三三

【定価 金 貳圓】

断、構成能の如き稍々高級の判断になると、餘り關係がなくなつて來ることは、活動性から發する判断よりは机上で受ける思索的學習による効果を得ることから身体の缺陷を補ふものと考へるのが至當ではなからうか。

單一反應は近視と蛔蟲卵のみが影響してゐるが、その複雑な反應たる學習能(第二十八表)では体格が著しく影響してゐる。是は單一反應では持續性を餘り要しないが、後者では持續性則ち根氣を要するから此の差異が現はれて來るのであらう。

共應動作には何等影響はないが、第二十八表でも同様である。この動作は能力的といふよりも寧ろ性格的の意味をもつてゐるからではなからうか。

順應動作は近視と「トラホーム」、蛔蟲卵、体格の四者に影響する。第二十八表では近視に影響してゐる。知能と略々同様の關係であるが唯其の關係が薄い。是は尙或意味をもつてゐるらしく思はれる。

直立安定は近視、「トラホーム」、蛔蟲卵、榮養に影響してゐる。第二十八表に依つても、近視に著しく關係をもつてゐる。これは吾々が身体を安定にする機能の中で眼は重要な働をなしてゐる。

握力は近視、疔疔栓塞、榮養、体格に影響しており、第二十八表によつて見ると体格に抜群に影響してゐるがこれは甲すも當然なること、思はれる。

以上各個々の性能と疾病との關係を述べたのであるが、之を總括して見るに、近視、「トラホーム」、蛔蟲卵、榮養、体格の五者が最も多く性能に關係してゐることを知るのである。(参照第二十六表、第二十八表)

## 第八章 茗溪會算術検査と醫學的調査

### 第一節 茗溪會算術計算問題

茗溪會研究部が研究した結果發表せる「算術計算問題ノ成績考査基準」によれば、同計算問題は、問題選定に當りて次の如き方針に従つてゐる。

- 一、國定教科書中から選ぶこと
- 二、各學年別に選ぶこと
- 三、各學年に於ける主要教材を選ぶこと
- 四、計算に關して起り得る種々の場合を出来るだけ網羅すること
- 五、各學年末に於ける成績を考査するに適するやう選ぶこと。

右の如き選定方針によつて低學年用(尋一、二、三)と高學年用(尋四、五、六)との二組が選定され、各々は更に甲類、乙類、丙類の三種に分れてゐる。従つて全体では六種となるわけである。而して、甲、乙、丙各種の難易度は略々同程度のものである。(参照茗溪會研究部算術計算検査)



甲類(1)

ヨセザン (フブキ)

$\begin{array}{r} 87 \\ 89 \\ +28 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 46 \\ 82 \\ +94 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 87 \\ 69 \\ +45 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 57 \\ 37 \\ +79 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 97 \\ 85 \\ +69 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 923 \\ 845 \\ +376 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 624 \\ 497 \\ +378 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 832 \\ 476 \\ +571 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 274 \\ 546 \\ +673 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 537 \\ 458 \\ +963 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 476 \\ 856 \\ +638 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 562 \\ 342 \\ +896 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 751 \\ 374 \\ +976 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 281 \\ 293 \\ +457 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 875 \\ 349 \\ +687 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 629 \\ 418 \\ +873 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 448 \\ 895 \\ +456 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 887 \\ 386 \\ +472 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 5425 \\ +8596 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 8264 \\ +4583 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 2908 \\ +4089 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 1264 \\ +8739 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 8456 \\ +2548 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 7829 \\ +6425 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 5632 \\ +9718 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 8321 \\ +2684 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 7948 \\ +3294 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 5426 \\ +3658 \\ \hline \end{array}$		

甲類(1)

ヨセザン (10分)

$1+1=$	$5+2=$	$5+5=$	$3+6=$	$3+4=$	$7+2=$		
$2+1=$	$4+1=$	$7+3=$	$7+6=$	$2+9=$			
$7+4=$	$5+3=$	$6+6=$	$8+9=$	$4+1+3=$			
$3+2+5=$	$8+4+5=$	$7+4+5=$	$2+3+9=$				
$4+9+3=$	$4+3+3=$	$7+6+5=$	$3+8+3=$				
$3+3+9=$	$23+3=$	$47+2=$	$46+6=$				
$54+5=$	$44+2=$	$39+7=$	$36+9=$	$64+4=$			
$27+8=$	$6+32=$	$4+38=$	$49+1=$	$84+8=$			
$76+7=$	$3+89=$	$72+17=$	$42+38=$	$28+64=$			
$36+23=$	$33+47=$	$28+52=$	$56+29=$	$29+45=$			
$38+54=$	$72+18=$	$48+37=$	$38+47=$	$29+67=$			
$\begin{array}{r} 4 \\ 2 \\ 5 \\ 1 \\ +9 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3 \\ 6 \\ 2 \\ 9 \\ +5 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 6 \\ 4 \\ 2 \\ 9 \\ +8 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3 \\ 8 \\ 4 \\ 7 \\ +5 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 6 \\ 5 \\ 2 \\ 7 \\ +7 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3 \\ 8 \\ 9 \\ 6 \\ +4 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 7 \\ 2 \\ 2 \\ 3 \\ +9 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 2 \\ 6 \\ 4 \\ 9 \\ +4 \\ \hline \end{array}$
$\begin{array}{r} 4 \\ 5 \\ 3 \\ 6 \\ +8 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 8 \\ 9 \\ 6 \\ 1 \\ +8 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 53 \\ 27 \\ +68 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 54 \\ 18 \\ +42 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 72 \\ 23 \\ +98 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 52 \\ 29 \\ +78 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 29 \\ 84 \\ +73 \\ \hline \end{array}$	

(次の紙へス、リ)



甲類(1)

カケザン (6分)

$$1 \times 3 = \quad 1 \times 5 = \quad 1 \times 1 = \quad 6 \times 3 = \quad 1 \times 7 =$$

$$2 \times 9 = \quad 6 \times 2 = \quad 8 \times 8 = \quad 5 \times 6 = \quad 6 \times 6 =$$

$$5 \times 9 = \quad 6 \times 9 = \quad 9 \times 3 = \quad 4 \times 2 = \quad 7 \times 4 =$$

$$\begin{array}{r} 761 \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7206 \\ \times 5 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 278 \\ \times 7 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 2186 \\ \times 6 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 4386 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 3797 \\ \times 4 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 4325 \\ \times 9 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 689 \\ \times 8 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 81 \\ \times 65 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 47 \\ \times 34 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 32 \\ \times 85 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 79 \\ \times 95 \\ \hline \end{array}$$

甲類(1)

ヒキザン (5分)

$$5-2= \quad 11-2= \quad 7-5= \quad 14-5= \quad 14-2=$$

$$6-2= \quad 13-5= \quad 12-5= \quad 12-3= \quad 14-6=$$

$$20-8= \quad 13-2= \quad 17-4= \quad 20-7= \quad 91-82=$$

$$62-57= \quad 39-36= \quad 45-38= \quad 83-74=$$

$$87-43= \quad 65-36= \quad 98-46= \quad 43-27=$$

$$\begin{array}{r} 5436 \\ - 506 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 2641 \\ - 2433 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 2846 \\ - 1257 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7850 \\ - 6888 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 9237 \\ - 8254 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 1745 \\ - 1648 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 8174 \\ - 4905 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 5673 \\ - 1038 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2648 \\ - 1372 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 5120 \\ - 416 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 3615 \\ - 2082 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7104 \\ - 1452 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1826 \\ - 937 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 1208 \\ - 845 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 7302 \\ - 6307 \\ \hline \end{array} \quad \begin{array}{r} 8340 \\ - 5677 \\ \hline \end{array}$$



東京文理科大學 田中寛一指導  
教授文學博士

茗溪會研究部著

# 算術計算検査 (甲類2)

検査年月日 昭和.....年.....月.....日

学校名 .....小學校

学年第.....学年.....組男女

氏名 .....

生年月日 .....年.....月.....日生

満年 月

### 注意

1. 鉛筆は二本以上用意しておきなさい。
2. 「始め」といつてから「止め」といはれるまでの間、まちがはぬやうに出来るだけ早く計算しなさい。
3. 勝手に紙をあけてはいけません。
4. 「止め」といはれたら直ぐにやめなさい。
5. たくさん問題がありますから替出来なくてもよろしい、むづかしいのは跳して進み、時間があつたらあとでしなさい。
6. 「答」として特別にはなして書かなくてもよろしい。
7. 紙のあいてゐるところで計算してもよろしい。

算術計算検査(甲類2)

昭和三年十二月八日印刷  
昭和三年十二月十二日發行

著者 茗溪會研究部  
 發行所 山本 廣 治  
 東京都神田區錦町三丁目十七番地  
 印刷所 新井 長 治 郎  
 東京都中央区本町四丁目一ノ十二  
 印刷所 松武 秀 英 會  
 東京都中央区本町四丁目一ノ十二  
 【定價 金 五 錢】

銀行所 東京市神田區 増風館 電話東京三三六一七  
 電話三三三

甲類(1)

ワリザン (5分)

$72 \div 8 =$        $35 \div 5 =$        $29 \div 5 =$        $54 \div 6 =$

$28 \div 4 =$        $16 \div 2 =$        $32 \div 8 =$        $30 \div 4 =$

$57 \div 6 =$        $29 \div 7 =$        $50 \div 6 =$        $65 \div 7 =$

$28 \div 9 =$        $39 \div 7 =$

$2 \overline{)264}$        $7 \overline{)3025}$        $4 \overline{)847}$

$4 \overline{)4335}$        $6 \overline{)2381}$        $9 \overline{)5379}$

$32 \overline{)2368}$        $65 \overline{)2863}$        $78 \overline{)2731}$



甲類(2)

寄算 (ツブキ)

<u>7829</u> <u>+6425</u>	<u>5632</u> <u>+9718</u>	<u>8321</u> <u>+2684</u>	<u>7948</u> <u>+3294</u>	<u>5426</u> <u>+3658</u>
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

<u>5325</u> <u>6278</u> <u>8301</u> <u>+2963</u>	<u>3407</u> <u>2959</u> <u>8721</u> <u>+5519</u>	<u>4408</u> <u>8935</u> <u>4569</u> <u>+7784</u>	<u>8725</u> <u>3429</u> <u>6837</u> <u>+4534</u>	<u>5621</u> <u>3427</u> <u>8926</u> <u>+8356</u>
---	---	---	---	---

<u>8729</u> <u>6725</u> <u>2592</u> <u>+6456</u>	$\frac{2}{7} + \frac{3}{7} =$	$\frac{8}{13} + \frac{9}{13} =$	$\frac{5}{8} + \frac{3}{8} =$
---	-------------------------------	---------------------------------	-------------------------------

$\frac{3}{5} + \frac{4}{5} =$	$\frac{3}{14} + \frac{9}{14} =$	$\frac{5}{8} + \frac{7}{8} =$	$\frac{7}{18} + \frac{15}{18} =$
-------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

$\frac{1}{3} + \frac{1}{12} =$	$\frac{5}{12} + \frac{1}{18} =$
--------------------------------	---------------------------------

$\frac{5}{8} + \frac{7}{12} =$	$\frac{3}{8} + \frac{13}{20} =$
--------------------------------	---------------------------------

$\frac{7}{9} + \frac{5}{6} =$
-------------------------------

甲類(2)

寄算 (9分)

<u>4</u> <u>2</u> <u>5</u> <u>1</u> <u>+9</u>	<u>3</u> <u>6</u> <u>2</u> <u>9</u> <u>+5</u>	<u>6</u> <u>4</u> <u>2</u> <u>9</u> <u>+8</u>	<u>3</u> <u>8</u> <u>4</u> <u>7</u> <u>+5</u>	<u>6</u> <u>5</u> <u>2</u> <u>7</u> <u>+7</u>	<u>3</u> <u>8</u> <u>9</u> <u>6</u> <u>+4</u>	<u>7</u> <u>2</u> <u>2</u> <u>3</u> <u>+9</u>
---	---	---	---	---	---	---

<u>2</u> <u>6</u> <u>4</u> <u>9</u> <u>+4</u>	<u>4</u> <u>5</u> <u>3</u> <u>6</u> <u>+8</u>	<u>8</u> <u>9</u> <u>6</u> <u>1</u> <u>+8</u>	<u>53</u> <u>27</u> <u>+68</u>	<u>54</u> <u>18</u> <u>+42</u>	<u>72</u> <u>23</u> <u>+98</u>	<u>52</u> <u>29</u> <u>+78</u>
---	---	---	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------

<u>29</u> <u>84</u> <u>+73</u>	<u>87</u> <u>89</u> <u>+28</u>	<u>46</u> <u>82</u> <u>+94</u>	<u>87</u> <u>69</u> <u>+45</u>	<u>57</u> <u>37</u> <u>+79</u>	<u>97</u> <u>85</u> <u>+69</u>	<u>923</u> <u>845</u> <u>+376</u>
--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------------------	---

<u>624</u> <u>497</u> <u>+378</u>	<u>832</u> <u>476</u> <u>+571</u>	<u>274</u> <u>546</u> <u>+673</u>	<u>537</u> <u>458</u> <u>+963</u>	<u>476</u> <u>856</u> <u>+638</u>	<u>562</u> <u>342</u> <u>+896</u>
---	---	---	---	---	---

<u>751</u> <u>374</u> <u>+976</u>	<u>281</u> <u>293</u> <u>+457</u>	<u>875</u> <u>349</u> <u>+687</u>	<u>629</u> <u>418</u> <u>+873</u>	<u>448</u> <u>895</u> <u>+456</u>	<u>887</u> <u>386</u> <u>+472</u>
---	---	---	---	---	---

<u>5425</u> <u>+8596</u>	<u>8264</u> <u>+4583</u>	<u>2908</u> <u>+4089</u>	<u>1264</u> <u>+8739</u>	<u>8456</u> <u>+2548</u>
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------

(次ノ紙ニ掲グ)



甲類(2)

掛算 (6分)

$$\begin{array}{r} 761 \\ \times 5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7206 \\ \times 5 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 278 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2186 \\ \times 6 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4386 \\ \times 7 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 3797 \\ \times 4 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 4325 \\ \times 9 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 689 \\ \times 8 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 81 \\ \times 65 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 47 \\ \times 34 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 32 \\ \times 85 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 79 \\ \times 95 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 384 \\ \times 176 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 163 \\ \times 854 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 564 \\ \times 398 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7931 \\ \times 16 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1790 \\ \times 48 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7534 \\ \times 87 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.09816 \\ \times 0.54 \\ \hline \end{array}$$

$$\frac{3}{7} \times \frac{22}{25} =$$

$$\frac{9}{42} \times \frac{49}{27} =$$

$$\frac{42}{121} \times \frac{22}{74} =$$



甲類(2)

引算 (3分)

$$\begin{array}{r} 5436 \\ - 506 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2641 \\ - 2433 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2846 \\ - 1257 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7850 \\ - 6888 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 9237 \\ - 8254 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1745 \\ - 1648 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8174 \\ - 4905 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 5673 \\ - 1038 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 2648 \\ - 1372 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 5120 \\ - 416 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 3615 \\ - 2082 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7104 \\ - 1452 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1826 \\ - 937 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 1208 \\ - 845 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 7302 \\ - 6307 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 8340 \\ - 5677 \\ \hline \end{array}$$

$$\frac{13}{18} - \frac{5}{18} =$$

$$4\frac{7}{15} - \frac{2}{15} =$$

$$2\frac{5}{13} - \frac{12}{13} =$$

$$1\frac{8}{21} - \frac{17}{21} =$$

$$2 - 1\frac{1}{2} =$$

$$\frac{2}{3} - \frac{1}{2} =$$

$$\frac{3}{4} - \frac{7}{12} =$$

$$\frac{3}{5} - \frac{1}{3} =$$

$$\frac{5}{12} - \frac{2}{5} =$$

$$3\frac{1}{2} - \frac{3}{4} =$$

$$\frac{8}{15} - \frac{3}{10} =$$



甲類(2)

割算 (8分)

$$\begin{array}{r} 2)264 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 7)3025 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 4)847 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 4)4335 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 6)2381 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 9)5379 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 32)2368 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 65)2863 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 78)2731 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 613)2015 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 169)850070 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 286)17802 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 43)4644 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 29)1637 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 49)6707 \\ \hline \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.81)28.35 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 2.8)588.84 \\ \hline \end{array} \qquad \begin{array}{r} 3.4)936 \\ \hline \end{array}$$

$$1\frac{1}{8} \div \frac{3}{4} = \qquad 7 \div 3\frac{1}{3} =$$

$$2\frac{3}{5} \div 2\frac{1}{2} =$$

検査方法は團体的に施行するもので時間を限定する。

第二節 若溪會算術應用問題

若溪會算術應用検査は問題選定に當りて次の諸項が留意されてゐる。

- 一 國定算術書中から選ぶこと。但し數量はなるべく簡單なものにして計算を易くすること。
- 二 尋常科第二學年以上各學期別を選び、これ等を以て尋常第三學年乃至第六學年用の検査を作ること。
- 三 知識的材料よりは推理的のものを重んじて選ぶこと。
- 四 同一程度の検査用紙を二種以上作る必要上なるべく多數の問題を選ぶこと。

右に述べた選定方針によつて甲類、乙類の二組が選定作成された。この兩者は略々同一の困難度を有するものである。更にこの兩者は夫々1と2とに分けられ、1は尋常三、四、五年用、2は尋常五、六年用になつてゐる。尋常三、四年用には尋二、三、四の教材が採用せられ、尋常五、六年用には尋四、五、六の教材が採用されてゐる。

(参照若溪會研究部算術應用検査)

検査は時間を一定して團体的になされる。

第三節 算術検査と醫學的調査

本校に於ては前二節に述べた若溪會算術計算検査と應用検査とを昭和三年十月尋常一學年男女二八六名、尋常五學年男女一九五名とに實施し、その成績を上、下に分ち、之

と醫學的調査との關係を見た。

第三十表は成績下なる者の百分比を上なるもの、百分比にて除したる分布比である。(但し榮養、体格(甲)は下にて上を除したるものである)。

之に依つて案ずるに近視は寄算、割算には正の關係を有するも引算、應用問題には逆の關係を示す。之は疾病者少きためか、或は勉學過度のため、かゝる結果を來たせしかと思ふ。

トラホームは五年、一年共正なる關係を有してゐる。

結膜炎は五年に於ては疾病者少きため判明せざれ共、一年に於ては正の關係を示してゐる。結膜炎も學業に關係を及ぼすものと見て差仕へなからう。

町聘検査は五年に於て極めて高き影響をなしてゐることは注意すべき事である。一年に於て影響少きは、成績優等なる上も劣等なる下も共に多く町聘、検査せるによるものと思ふ。即ち餘り影響せざるものと思ふ。或は之は五學年に於ては教師の説明を多く聞きためか。

鼻加答兒は五年に於ては關係なきが如きも一年に於てはかなりの影響がある。

扁桃腺肥大、頸腺腫脹は共に逆の關係を示してゐる。

蛔蟲卵は明かに精神方面に影響してゐることが判る。(後節若溪會算術検査成績と寄生蟲との關係参照)

脊柱の後彎はさしたる影響なきが如く思はれる。反つて



- (1) 去年の學校ニ本ガ 185 冊アツタガ今年ハ 290 冊ニナツタ。幾冊フエタカ。 答\_\_\_\_\_
- (2) 着物ノママデ體ノ重ヲヲハカツタラ 25500 g アツタ。着物ノ目方ガ 1200 g デアルト體ダノ重ヲハ何程カ。 答\_\_\_\_\_
- (3) 1 m ノ絹ヲ織ルニハ蠶 400 匹ノ出ス糸ガイルト蠶 20000 匹ノ出ス糸デ絹ヲ幾メートル織ルコトガ出来ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (4) 汽車ガ 5 時間ニ 230 km 走ルト平均一時間ニ何程走ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (5) 道ノ木ニ柳ガ 15 m プツヘダララ 21 本植エテアル。初ノ木カラ終リノ木マデハ何程アルカ。 答\_\_\_\_\_
- (6) 縦ノ長ナ 20 cm、横ノ長ナ 14 cm、厚ナ 2 cm ノ板ガ 10 枚アル。體積ハ皆デ幾立方センチメートルカ。 答\_\_\_\_\_
- (7) 1 俵 15 kg ノ炭ガ 20 俵アル。コレヲ 30 日デ使フト、平均 1 日ニ幾キログラムヅツニ當ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (8) 午前 11 時 30 分カラ午後 2 時 30 分マデニ 72 km 走ル自動車ハ平均 1 分間ニ幾メートルヅツ走ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (9) 時計ガ 3 時ヲナストキ、長針ト短針ノ間ノ角ハ何度デアルカ。 答\_\_\_\_\_
- (10) 先月ノ末日ガ月曜日デアツタ。今月中ノ土曜日ヲ皆イヘ。 答\_\_\_\_\_

東京文理科大學 田中寛一指導  
教授文學博士

茗溪會研究部編

## 算術應用検査 (尋五六年用) (甲組 2)

検査年月日 昭和\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日  
 學校名 \_\_\_\_\_ 小學校  
 學年 第\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_組 男女  
 氏名 \_\_\_\_\_  
 生年月日 \_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日生  
 満年 月

### 注意

- 鉛筆は二本以上用意しておきなさい。
- 「始め」といつてから「止め」といはれるまでの間、まちがはぬやうにしなさい。
- 「止め」といはれたら直ぐにやめなさい。
- たくさん問題がありますから皆出来なくてもよろしい。むづかしいのは残して進み、時間があつたらあとでしなさい。
- 「答」だけあればよく、式はいりません。
- 計算は紙のあいてゐるところでしなさい。
- 次の問題の検査時間は全部で15分間です。

算術應用検査 (尋五六年用)

昭和四年十一月五日印刷 昭和四年十一月八日發行	編者 茗溪會研究部 發行者 山本慶治 東京市神田區横町二丁目十七番地 印刷者 山本浩作 東京市神田區大塚町一丁目三番地 【定価金壹圓】
發行所 東京市神田區 島町三丁目	培風館 印刷部 東京市三軒 電話部 三三七七



- (21) 大工が6日ハタライテ18圓ノ賃錢ヲ得タ。コ  
ノ大工ガ一箇月ニ25日ダケハタラクト、一箇月  
ノ賃錢ハイクラカ。 答\_\_\_\_\_
- (22) 急行列車ガ14 km 行ク間ニ普通列車ハ9 km 行  
クト、急行列車ガ9時間デ行ク距離ヲ普通列車  
デ行クト、何時間カカルカ。 答\_\_\_\_\_
- (23) 亞鉛65 gニ稀硫酸ヲカケルト、水素ガ2 gトレ  
ル。156 gノ亞鉛ヲ使フト、何 gノ水素ガトレル  
カ。 答\_\_\_\_\_
- (24) 圓ノ面積ハ直徑ノ平方ニ比例スル。甲乙ニツ  
ノ圓ノ直徑ノ比ガ4:5デ、甲ノ面積ガ16平方セ  
ンチメートルデアルト、乙ノ面積ハイクラカ。 答\_\_\_\_\_
- (25) 原價10圓ノ商品ヲ2割ノ利益ヲ見テ賣ルニハ  
イクラニ賣ツタラヨイカ。 答\_\_\_\_\_
- (26) 日歩ガ1錢1厘デ元金300圓ノ20日間ノ利子  
ハ何程カ。 答\_\_\_\_\_
- (27) 火藥ヲツクルニハ75%ノ硝石ト10%ノ硫黃ト  
殘リニ木炭ヲ混ゼル。コノ割合ノ火藥ヲ造ル  
ニ木炭300 gヲ用ヒルト、何程ノ火藥ガデキルカ。 答\_\_\_\_\_
- (28) 昭和4年ハ神武天皇即位紀元2589年デ西曆  
1929年デアル。昭和10年ハ西曆何年カ。 答\_\_\_\_\_
- (29) 電報料ハ15字マデハ30錢デ、其ノ上ハ5字又ハ  
其ノ端數ヲ増ス毎ニ5錢ヲ増ス。37字ノ電報  
ヲ出スニハイクラ電報料ガイルカ。 答\_\_\_\_\_
- (30) 上下2冊ノ或書物5部ノ代ガ5圓50錢デ、上ハ  
下ヨリモ1冊ニツキ10錢安イ。上1冊ノ代ハ  
幾ラカ。 答\_\_\_\_\_

- (11) 5圓札ヲ取リカヘルニ1圓札2枚ト50錢銀貨  
5枚ト、アトヲ10錢白銅貨ヲ取リカヘルトスレ  
バ10錢白銅貨ヲ何枚ニスレバヨイカ。 答\_\_\_\_\_
- (12) 1ノットハ1時間1海里ノ速ヲデアル。12ノ  
ットノ船ハ5時間ニ幾海里行クカ。 答\_\_\_\_\_
- (13) 内法縦ガ25 cm、横ガ18 cm、深サガ14 cmノ箱ガ  
アル。此ノ箱ノ容積ハ幾リットルデアルカ。 答\_\_\_\_\_
- (14) 或仕事ヲ甲ガスルト8日カカリ、乙ガスルト6  
日カカル。甲乙2人デハ1日ニ此ノ仕事ノ何  
分ノ何出来ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (15) 或長サノ紐ヲニツニ切ツタラ、一方ハ全體ノ半  
分ヨリモ $\frac{1}{6}$ ダケ長クナツタ。長イ方ハ短イ方  
ヨリモ全體ノ幾分ノ幾ツ長イカ。 答\_\_\_\_\_
- (16) 1俵60 l入ノ玄米ガ20俵アツタ。コレヲツイ  
タラ全體ノ $\frac{1}{15}$ ダケヘツタ。ツキベリハ全體デ  
何程カ。 答\_\_\_\_\_
- (17) 今カラ後今日ノ正午マデノ時間ハ午前6時カ  
ラ今マデノ $\frac{1}{4}$ デアル。今ノ時刻ハ何程カ。 答\_\_\_\_\_
- (18) 底邊15 cmデ面積120平方センチメートルノ平  
行四邊形ヲ作ルニハ高サヲイタクcmニスレバヨ  
イカ。 答\_\_\_\_\_
- (19) 圓錐形ノ器ガアル。内法底面ノ直徑10 cm、深サ  
20 cmアル。此ノ器ニ水幾リットル入ルカ。 答\_\_\_\_\_
- (20) 五角形ハ三ツノ三角形ニ分ケルコトガ出来ル  
カラ、其ノ五ツノ角ノ和ハ6直角デアル。正五  
角形ノ一ツノ角ハ何度アルカ。 答\_\_\_\_\_



田島小學校  
昭和六年十月  
醫學的調查

茗溪會算術檢查成績上醫學的調查ノ關係(分布比)

第三十表 五年 一年

	五年					一年	
	寄算	引算	掛算	割算	應用問題	寄算	引算
近視	1.14	0.88	1.00	1.33	0.63	—	—
トヲ木一ム	1.41	1.45	1.41	1.45	1.17	1.40	1.75
結膜炎	0.00	0.00	0.80	0.80	0.69	1.60	1.17
耳聾検査	3.00	5.25	2.57	1.40	1.88	0.73	0.93
鼻加答兒	1.50	0.79	1.78	0.92	1.36	1.85	1.47
扁桃腺炎	0.82	1.50	0.65	1.22	1.05	1.00	0.79
蛔虫卵	1.36	1.24	1.25	1.18	1.20	1.51	1.24
脊柱(後灣)	1.00	0.70	0.92	0.93	0.89	2.50	1.00
栄養(甲)	1.26	1.66	1.16	1.33	1.50	1.11	1.19
体格(甲)	1.57	1.77	1.54	1.92	1.77	1.13	1.13
体格(丙)	—	—	—	—	—	1.71	1.71
頸腺腫脹	0.86	1.08	1.00	1.08	1.60	0.67	0.62
扁平足	1.25	1.85	1.06	1.50	1.57	—	—

田島小學校  
昭和六年十月八日  
醫學的調查

茗溪會算術檢查成績上醫學的調查ノ關係(百分比)

第二十九表 五年 一年

		五年					一年	
		寄算	引算	掛算	割算	應用問題	寄算	引算
貧數	下	74	72	68	73	78	131	149
	上	77	79	88	77	66	121	103
近視	下	0.08	0.07	0.07	0.08	0.05		
	上	0.07	0.08	0.07	0.06	0.08		
トヲ木一ム	下	0.31	0.32	0.31	0.32	0.28	0.07	0.07
	上	0.22	0.22	0.22	0.22	0.24	0.05	0.04
結膜炎	下	0.00	0.00	0.04	0.04	0.04	0.08	0.07
	上	0.09	0.09	0.05	0.05	0.06	0.05	0.06
耳聾検査	下	0.18	0.21	0.18	0.14	0.15	0.11	0.13
	上	0.06	0.04	0.07	0.10	0.08	0.15	0.14
鼻加答兒	下	0.15	0.11	0.16	0.12	0.15	0.24	0.22
	上	0.10	0.14	0.09	0.13	0.11	0.13	0.15
扁桃腺炎	下	0.18	0.21	0.15	0.22	0.19	0.12	0.11
	上	0.22	0.14	0.23	0.18	0.18	0.12	0.14
蛔虫卵	下	0.64	0.61	0.60	0.60	0.60	0.53	0.47
	上	0.47	0.49	0.48	0.51	0.50	0.35	0.38
脊柱(後灣)	下	0.26	0.21	0.24	0.25	0.24	0.05	0.03
	上	0.26	0.30	0.26	0.27	0.27	0.02	0.03
栄養(甲)	下	0.31	0.26	0.31	0.30	0.28	0.27	0.26
	上	0.39	0.43	0.36	0.40	0.42	0.30	0.31
体格(甲)	下	0.14	0.13	0.13	0.12	0.13	0.16	0.16
	上	0.22	0.23	0.20	0.23	0.23	0.18	0.18
体格(丙)	下						0.12	0.12
	上						0.07	0.07
頸腺腫脹	下	0.12	0.14	0.13	0.14	0.17	0.08	0.08
	上	0.14	0.13	0.13	0.13	0.11	0.12	0.13
扁平足	下	0.20	0.24	0.18	0.21	0.22		
	上	0.16	0.13	0.17	0.14	0.14		

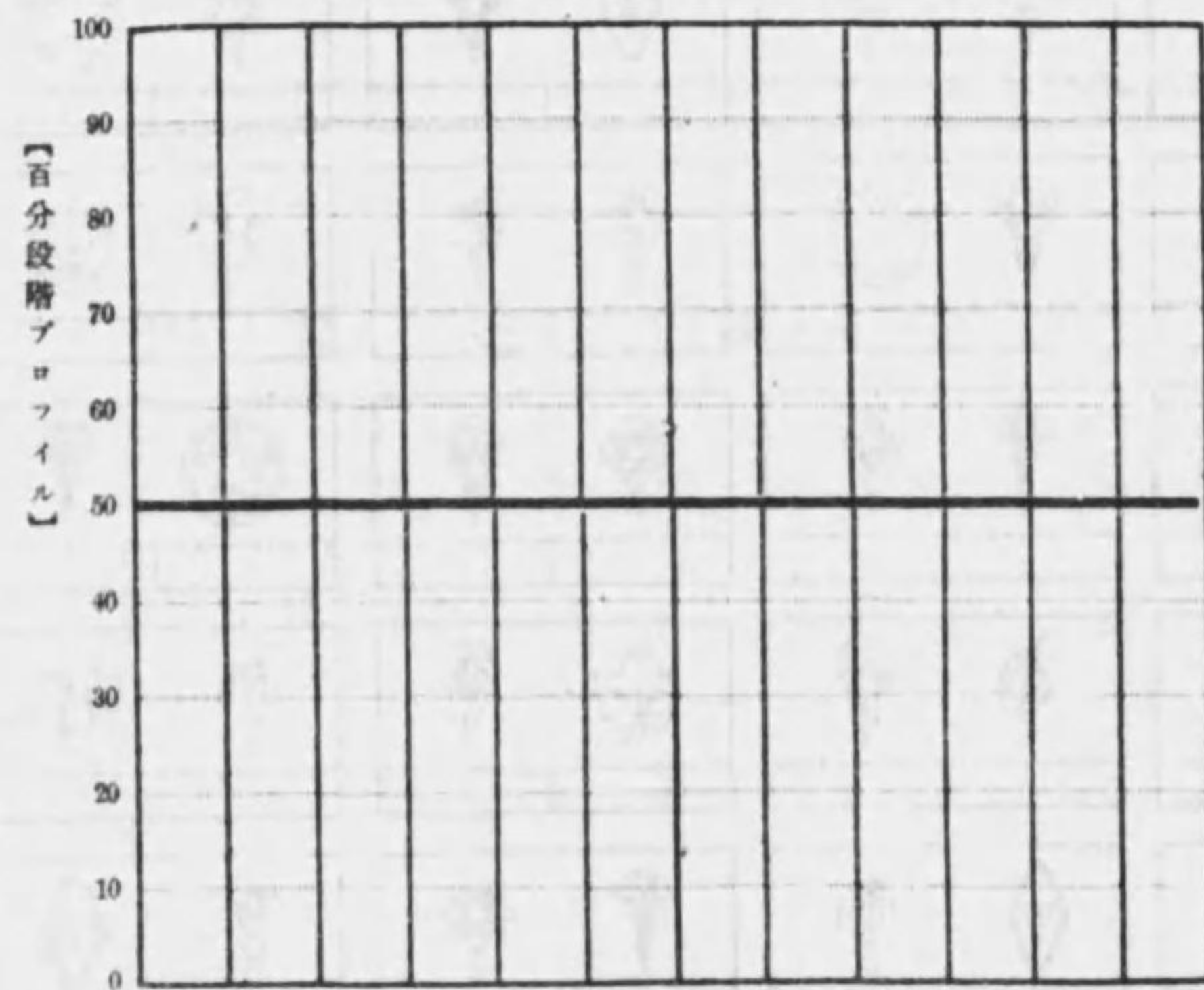






檢 查 成 績

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	
	一	決	動	運	比	擴	衝	自	決	制	精	細	執	
般	斷	作	動	2B	張	動	信	定	御	密	心	心		
智	能	1	2A	2B	<100	8A	8BCD	9	10	3C	5	6	7	
能														
得 點														合計 平均
百 分														
段 階														



一 決 動 運 比 擴 衝 自 決 制 精 細 執  
 般 斷 作 動 張 動 信 定 御 密 心 心  
 能 能 能 能 能 能 能 能 能 能 能 能 能 能

型

昭和五年十一月十六日印刷 著者 梶原 義 見 東京市下谷區御徒町三丁目  
 昭和五年十一月二十日發行 發行所 山越 長七 發賣所 山越 工作所 定價 五百部以下 壹部金貳圓五厘 (印刷費別)  
 五百部以上 壹部金貳圓 印刷費別

梶原義見改訂  
 Uhrbrock and Downey 原著

意 志 氣 質 檢 查

No. \_\_\_\_\_

姓 名

男  
 女

出生時 明治 年 月 日  
 大正

歲 月

尋常小學校 1 2 3 4 5 6  
 高等小學校 1 2 3 4  
 中等學校 1 2 3 4 5  
 專門學校大學 1 2 3 4 5 6 7

父 母  
 職業 業 業 業  
 自分

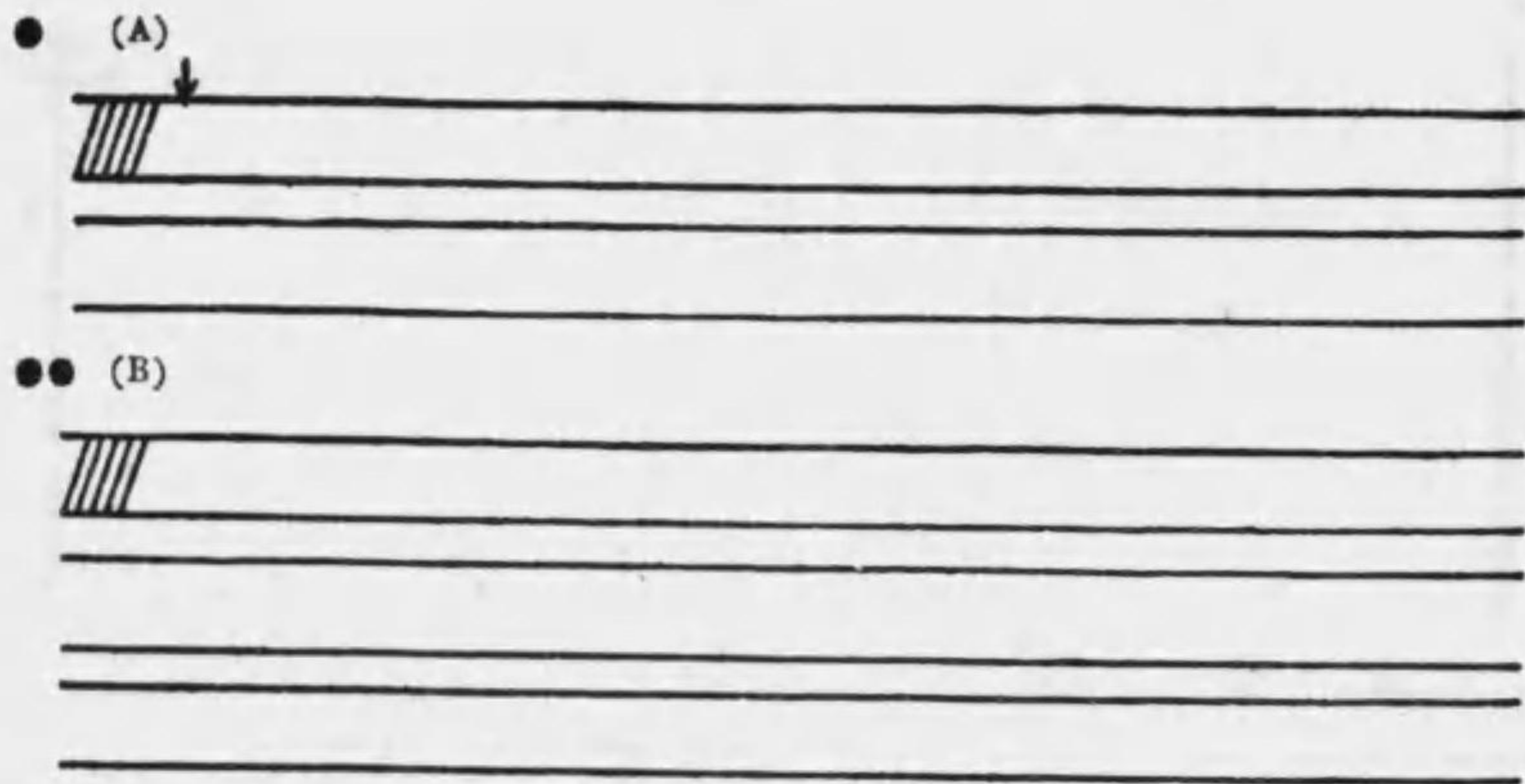
出身地 府 縣 市 町 村  
 現住所 府 縣 市 町 村

檢 査 昭和 年 月 日 午 時

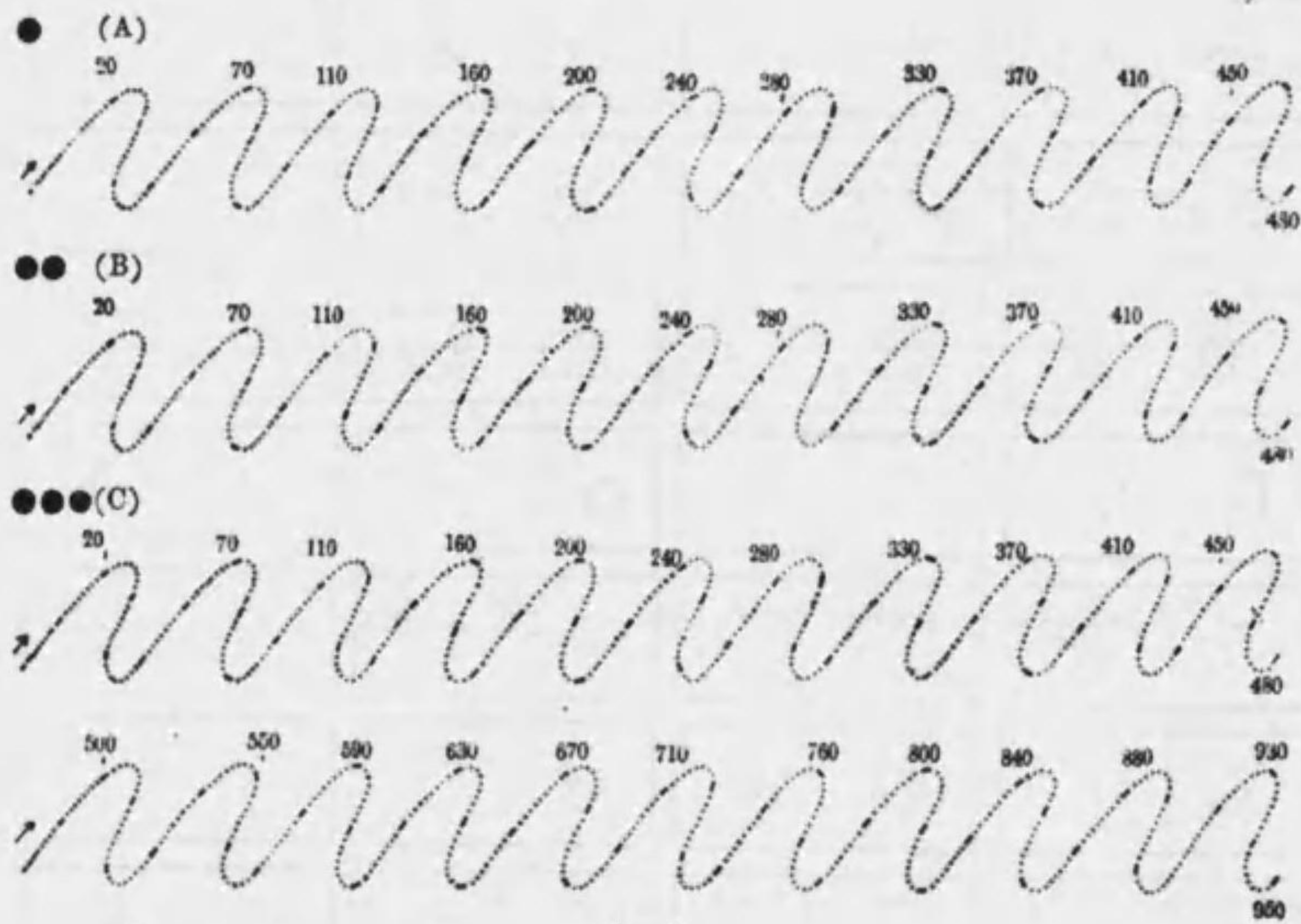
檢 査 10 ★★★★★  
 ★★★★★



檢 查 2      ★ ★

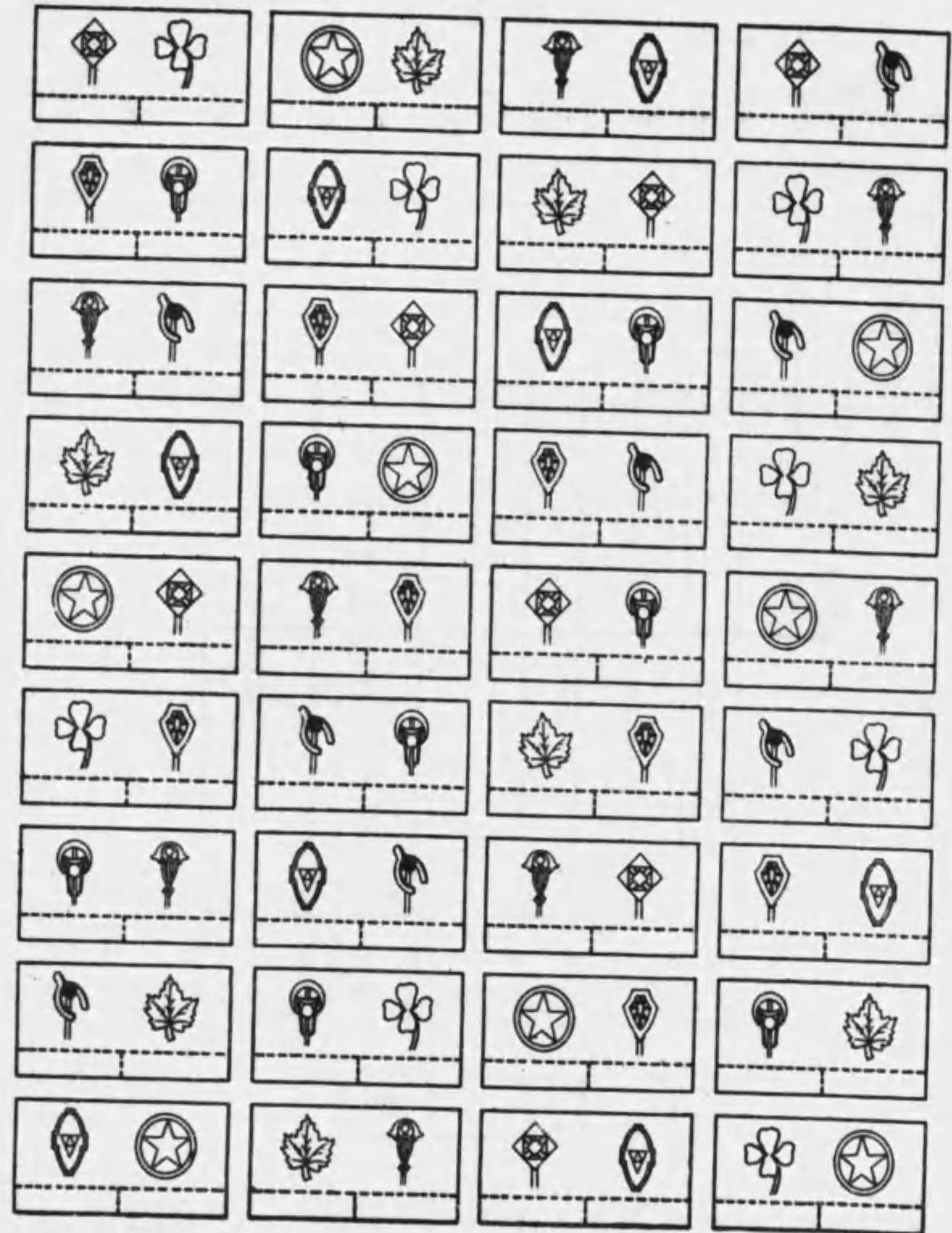


檢 查 3      ★ ★ ★



檢 查 4      ★ ★

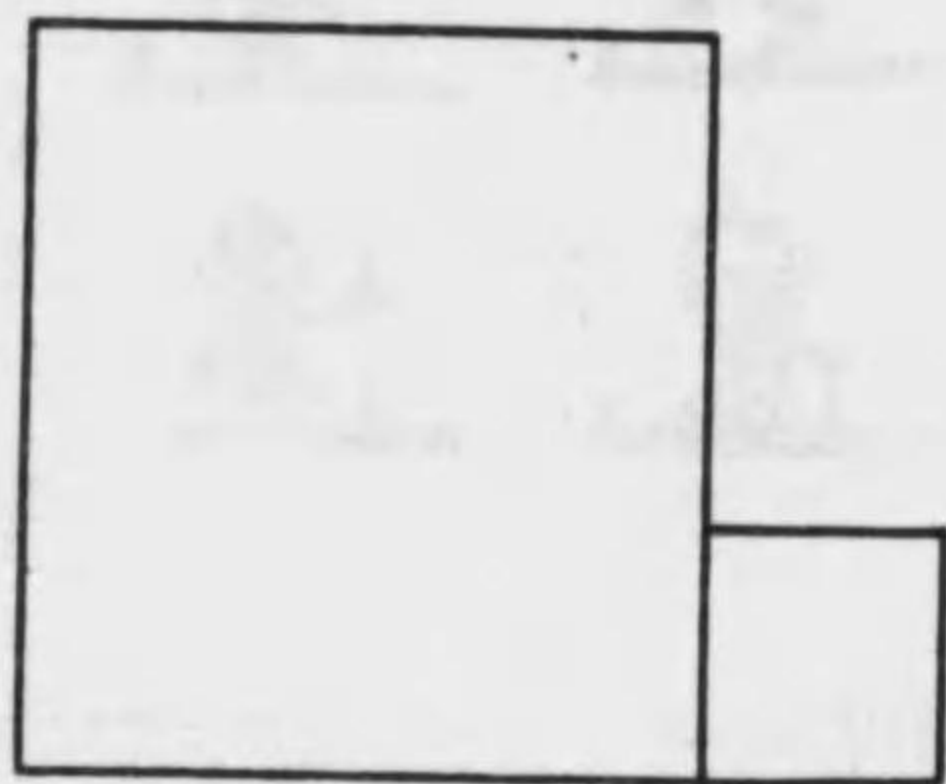
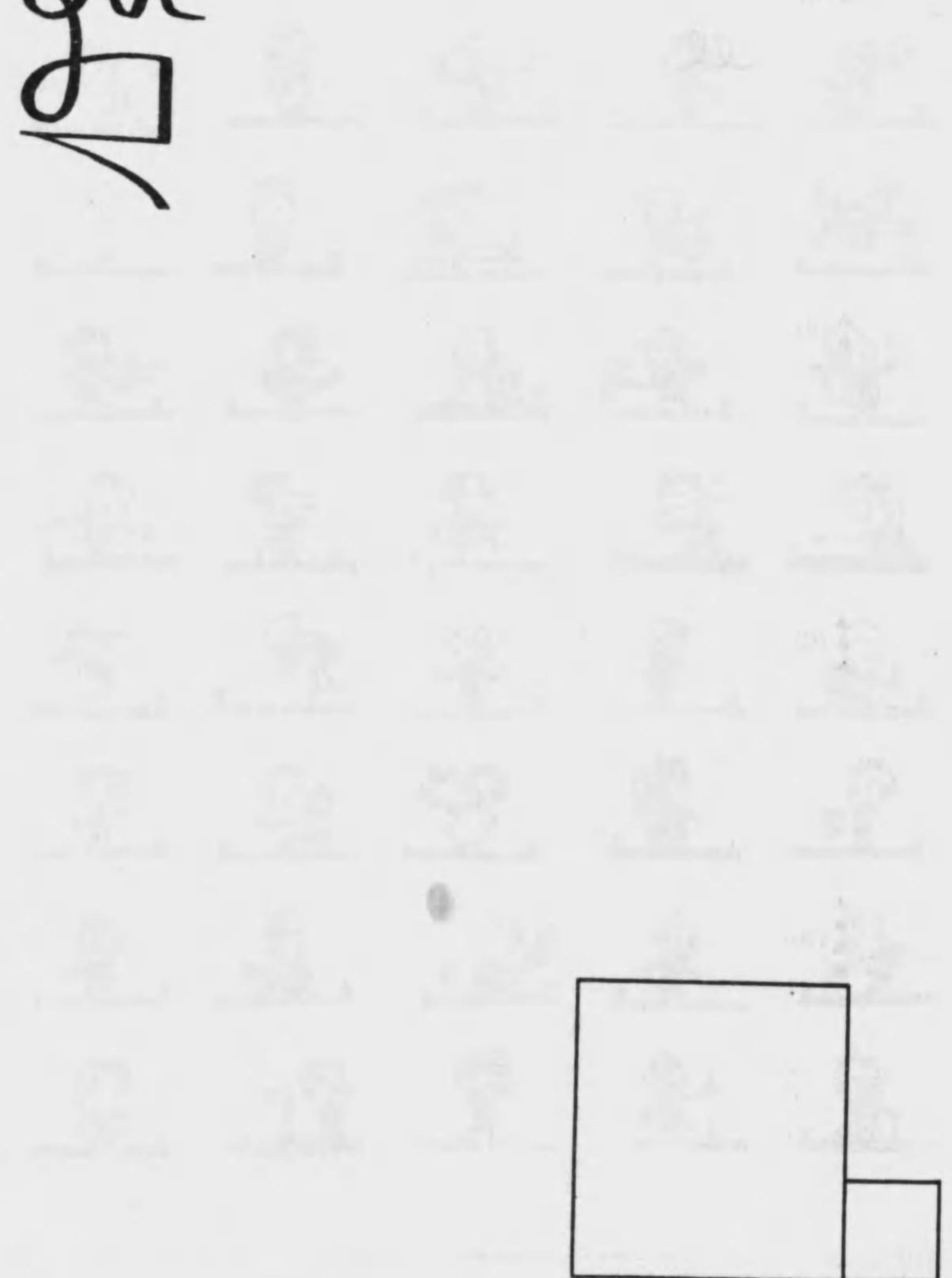
檢 查 1      ★





檢 查 7

★★★★  
★★★★



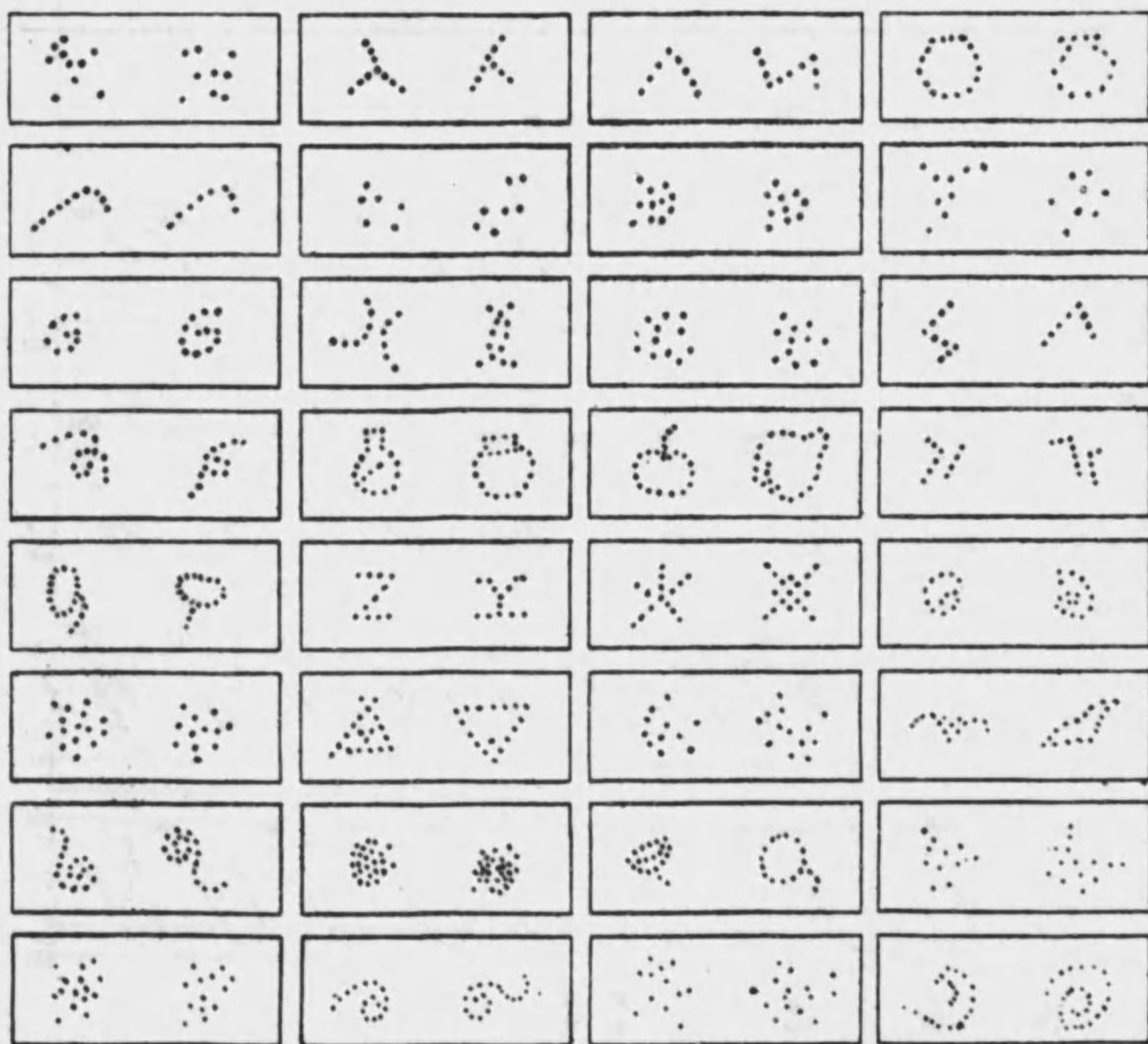
檢 查 5

★★★★★



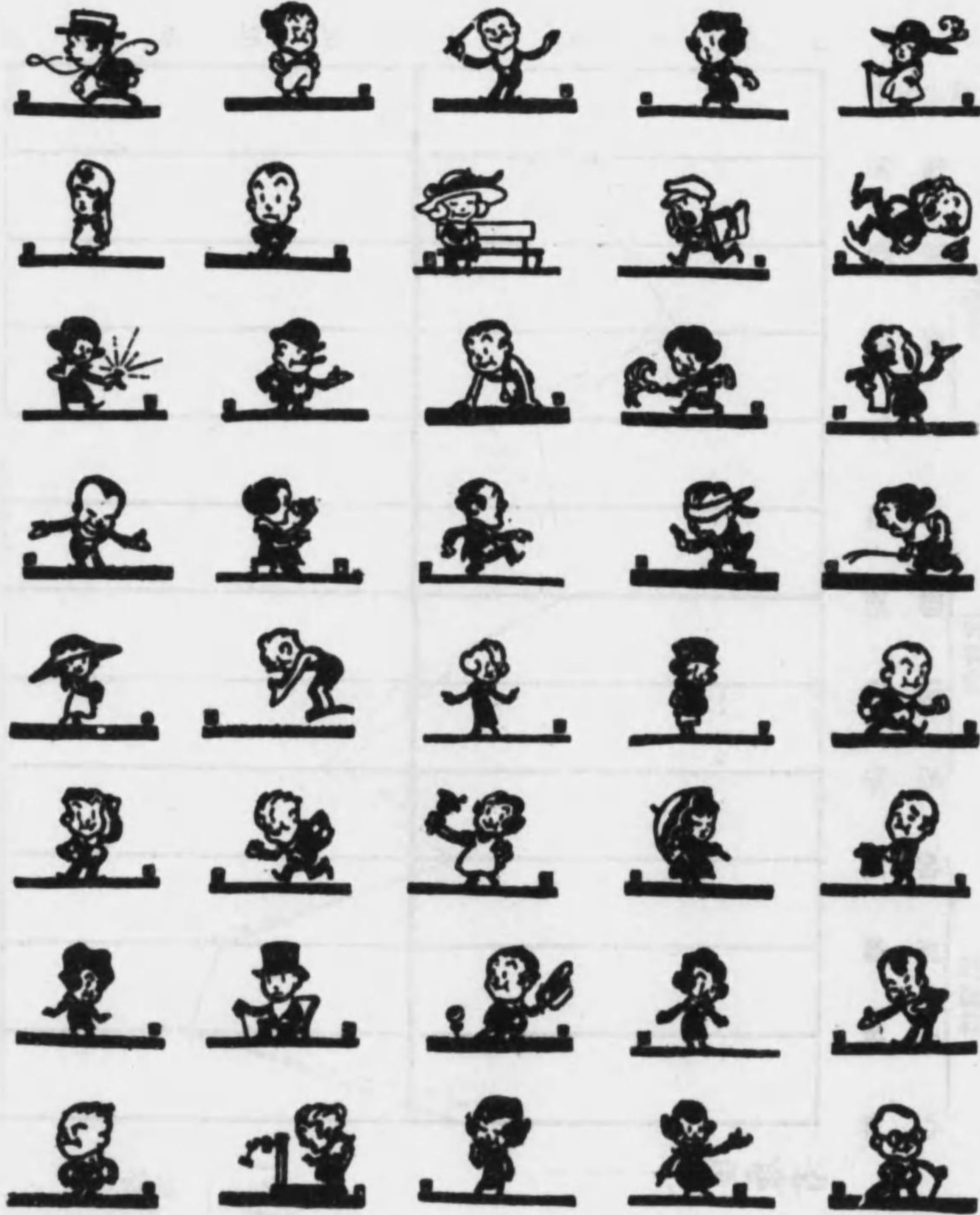
檢 查 6

★★★  
★★★





檢 查 9



檢 查 8



▲(A)

ll

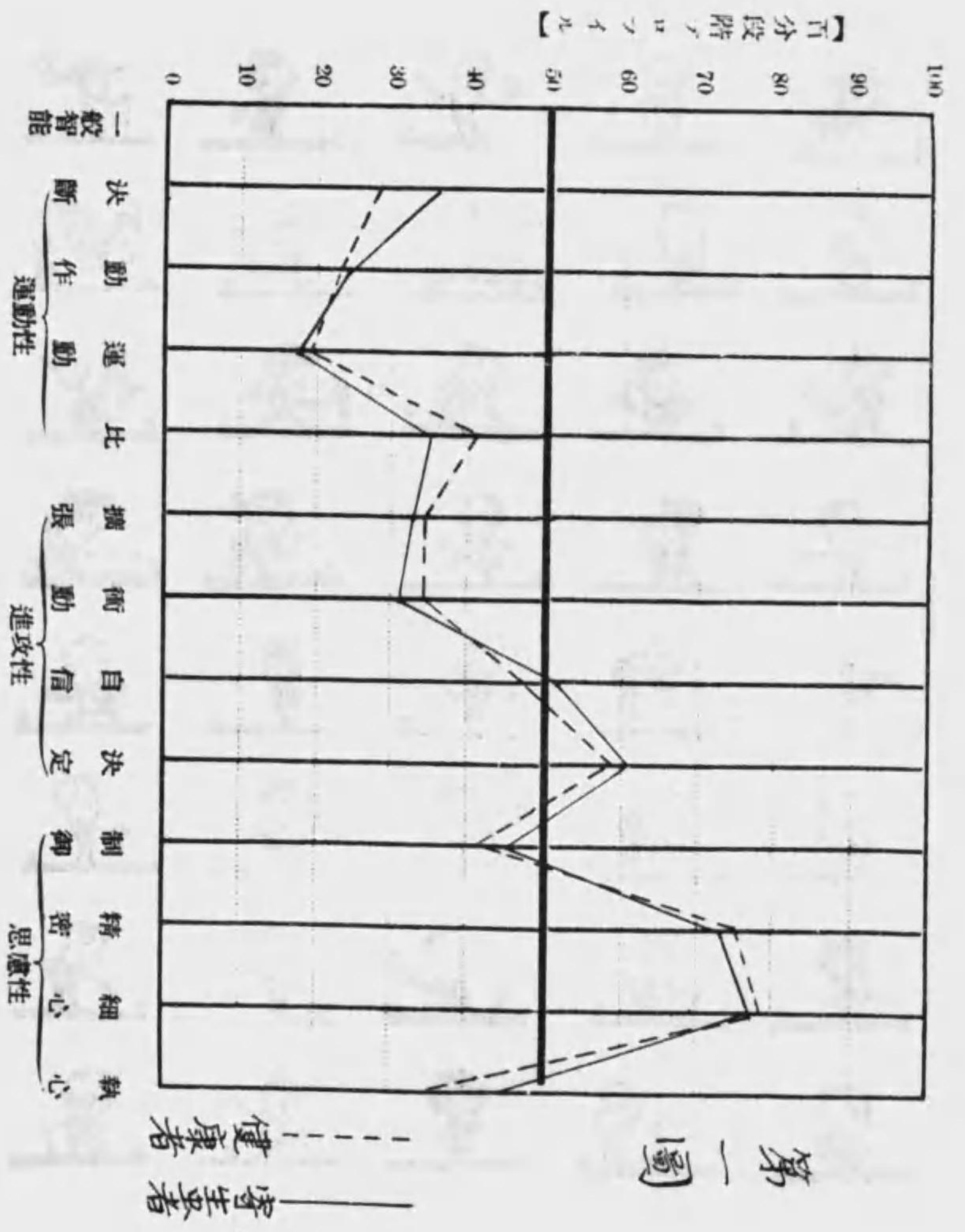
▲(B)

▲(C)

▲(D)







第一圖

D 運動の能  
 E 検査2, Bに對する2 Aの比  
 F 意志動作の擴張度  
 G 妨害に抵抗する意志的發動度  
 H 自信の強さ  
 I 決斷した所への決定性  
 J 衝動の意志的抑制  
 K 眼と手との共應動作の精密度  
 L 細部への關心の大小  
 M 一事に固執し用心する度

以上十二種の検査結果を、各々定められた一般規準に照して得る或る個人の比較的位置を連結して、その意志プロフィールを作り、その折線の形想よりして、前記各性質の現れの強さに應じて、左の意志氣質類型に分つやうになつてゐる。

消極型、積極型、運動型、進攻型、思慮型、運動・思慮型、運動・進攻型、進攻・思慮型、不定型。

(参照桐原氏意志氣質検査用紙)

以上は桐原氏意志氣質検査の略説であるが、吾々は右の検査を尋五男女一九五名に實施し、それが整理に當つて、寄生蟲者と、健康者とに區別してなした。

第一圖はその結果を示したもので實線は寄生蟲者を示し、點線は健康者を示す。之によれば、兩者共略々似たもので

特別の關係を見出すことが難い。

右二節に述べた寄生蟲と算術検査、寄生蟲と情意検査の二調査は更に第二回をなし、驅除前と驅除後に於ける成績を比較し以つてその關係を明にしやうと目下調査中である。その調査結果は何れ發表する豫定である。

第十章 成績向上への道

第一節 心身相關

問題とする學業知能と身体との關係が以上の實驗と測定とによつて明瞭になつて來たのである。即ち左の四條件が相關することである

- 一、五官器の故障
  - 二、寄生蟲の寄生
  - 三、身体發育の程度
  - 四、營養異常
- 五官器の故障に於ては、眼疾トラホーム、視力故障、近視、聽力障礙、耳聾検査が關係大なることが明瞭になつたものである。寄生蟲としては、蟲の寄生による關係が非常に多い。
- 身体發育方面に於ては体格の程度如何が關係し、營養異常としての不良は關係を持つて居るのである。

第二節 學業知能向上の衛生施設



以上の事實問題から導かれる問題、然かも重要な課題は、學業知能を向上するための衛生施設の研究である。この施設と訓練とは、教育増進の重要な条件であることを信ずる。こゝに課せられたる問題について述べて見ようと思ふ。

私はその施設と訓練とについて述べる前に、學業、知能を低下せしめる原因について考へて見る必要にせまられて居るのである。さてその低下の原因には、凡そ三つあると思ふ。即ち三つとは、

- 1、原因の兒童にある場合
- 2、原因の家庭にある場合
- 3、原因の身体にある場合

この三者に於て第一の兒童にある場合にも、二つある。その一は兒童の素質の如何による場合であり、その二は兒童自身の怠慢なる場合がある。第二の原因が兒童の家庭にある場合は、例へば突然に親を失つたる如き場合であるとか、家計に大變動の發生したるが如き場合であるとか家庭手傳の過勞に失するが如き場合であるとか等がそれであつて、學業を低下せしめる原因となるものである。第三の原因は、それは疾病異常によるものである。

かくて私が問題としてゐる學業知能向上には、主としてこの第三の場合に於けるもので、身体方面の故障を除去して、その能力を向上せしめんとするものである。更らにこ

ゝに説明を要するは、身体故障は、知能にも關係を持つことを信ずるものであることである。かうした立場から施設と訓練について述べることにする。

### 第三節 五官器の故障

それは眼疾、トラホームが關係する。従つて治療の施設を要する。家庭治療と學校治療とある。衛生訓練としては、眼をこすらぬこと、洗面所にて手を洗ふ習慣を作ること、手拭物品の貸借を禁止すること、患者の手の爪を短かく切らせて、時々消毒水で洗はせることとする等はよいことである。

視力の故障、近視の患兒には眼鏡を使用せしめることである。近視の者はその度が尙は強くなるからである。訓練としては光線の度に注意して暗所をさけしめること、姿勢に注意し細かな手仕事の繼續にも注意を要する。

聴力の障礙としての耳聾検査は、なほざりにしたが、衛生日などを週間行事として訓練して行くのがよい。

### 第四節 寄生蟲

以上の検査に於ては寄生蟲の障害の大なるを知つたのであるが、驅蟲劑を服用せしめてその驅除に努めねばならぬことは更らに述べるまでもない。家庭驅除と學校驅除とがあり、團體驅除と個人驅除とがある。次ぎに私の學校

### 第一回 檢便

寄 生 率	鞭 毛 寄 生 数	蛔 虫 寄 生 数	檢 便 人 員	田 島 小 学 校 昭和六年 十月十日 檢 査
一 年	杉田 敏	15	6	2
	江口 敏	33	13	6
	木原 敏	21	8	1
	久保 敏	34	14	7
	計	103	41	16
五 年	赤塚 敏	20	7	2
	茂木 敏	20	7	6
	石井 敏	19	7	3
	計	59	21	11

### 第二回 驅除

藥 効 率	一 平 均 排 蟲 数	排 蟲 總 数	排 蟲 人 員	服 藥 人 員	田 島 小 学 校 昭和七年二月九日 三月二日 三月八日 三月十二日 三月十八日 三月二十二日 三月二十八日 三月三十一日 サレニン服用
一 年	杉田 敏	15	8	19	2.38
	江口 敏	33	9	16	1.98
	木原 敏	21	5	5	1.00
	久保 敏	34	12	14	1.19
	計	103	34	54	1.59
五 年	赤塚 敏	20	1	2	2.00
	茂木 敏	20	6	16	2.67
	石井 敏	19	3	3	1.00
	計	59	10	21	2.10

### 第一回 驅除

藥 効 率	一 平 均 排 蟲 数	排 蟲 總 数	排 蟲 人 員	服 藥 人 員	田 島 小 学 校 昭和六年二月六日 三月二日 三月八日 三月十二日 三月十八日 三月二十二日 三月二十八日 三月三十一日 サレニン服用
一 年	杉田 敏	15	8	16	2.00
	江口 敏	33	15	34	2.27
	木原 敏	21	5	9	1.80
	久保 敏	34	10	13	1.30
	計	103	38	72	1.89
五 年	赤塚 敏	11	7	15	2.14
	茂木 敏	13	12	31	2.58
	石井 敏	16	10	39	3.90
	計	40	29	85	2.93

### 第三回 驅除

藥 効 率	一 平 均 排 蟲 数	排 蟲 總 数	排 蟲 人 員	服 藥 人 員	田 島 小 学 校 昭和七年二月九日 三月二日 三月八日 三月十二日 三月十八日 三月二十二日 三月二十八日 三月三十一日 サレニン服用
一 年	杉田 敏	15	6	18	3.00
	江口 敏	33	14	32	2.29
	木原 敏	21	9	10	1.11
	久保 敏	34	10	17	1.90
	計	103	39	77	1.97



の實際免除について表示することとする。

### 第五節 身体發育

身体發育の方面として關係大なるは体格である。体格と体重との釣合を基としていふのである。所謂小學校兒童の身体検査結果についていへば身体の大きさを計算して表はして概評といつてある体格の大小のことである。例へばその兒童の体格が、その兒童より一ツ年長の兒童以上の大きければ、その兒童は甲であるといふ。若しその兒童が、その年相當の大きさであるときは、それは乙の体格があるとす。又その兒童よりも一年以下の兒童の大きさであるとすれば、それは丙としてゐる。

かゝる体格向上への施設、訓練方面については、先づ第一には身体各部を合理的に課することである。近來小學校に於て競技を偏重して居るが、その弊害の及ぼすところ大なることが、醫學的に研究せられて來たが、要するに競技の中正こそがましい。

現在の小學校には、より以上校外運動の施設が必要であると思ふ。一年間に二回や三回の遠足では心細いことである。もつともつと、小遠足、即ち一、二時間づゝの校外運動を毎週に課したいものである。そして毎日五分間乃至十分間体操を課することもよい施設である。更らに夏季登山、臨海學校、隨時衛生週間の實施等のも

たらず効果は多大なるものである。私の學校では以上挙げた諸施設を實施してゐる。

### 第六節 營養異常

營養異常はかなり關係してゐるものであるから、これが向上をはからねばならぬ。身体検査の上で營養といふのは、兒童の肉づき、血色、脂肪の濃縮についていふのであつて、それが良否についていふもので、食物の營養ではなくて、瘦せてゐるか、肥えてゐるか、丈夫であるか、弱々しいかについていふのである。

營養向上については、休暇聚落、半休暇聚落の實施、日光浴の機會を多くあたへる、校外運動の機會を多くし、進んでは食物營養についての指導施設をなすこと、虛弱の都類に屬する兒童には、太陽燈、或はバイタライト・ランプの沐浴、肝油服用牛乳供給をなさしめる等がある。

食物營養の指導としては、兒童の生活指導の中に於てなされること、父兄保護者、殊に母の教育が必要である。兒童と母の教育の手懸りとして、先づ兒童食物調査が必要である。その調査の實際について掲げることとする。

### 第七節 食物調査

一、學年 尋三、四、五、六  
二、期日 昭和六年十一月十五日、十六日、十七日の

### 三日間

三、種目 主食、副食、すきなもの、きらひなもの、おやつ

四、食事別 主食、副食は朝、晝、夜に區別す

五、統計の方法

- 1、食品本位とす。
- 2、三日間の延数をとらず食品に對する生徒数を擧ぐ。
- 3、性別及び年齢別とす。

六、統計に現れた諸事項  
1、一食事に二食品以上食べて居れば生徒數に於ても二人以上となるも主食品に於ては變りなし。

- 2、主食品の生徒數だけなきは缺食兒ある爲である。
- 3、概して晝食に缺食兒多く夜食に混食兒多し。
- 4、主食の部に於て麥飯を食する者は男に多し。
- 5、副食物としては野菜、漬物が大部分を占めて居るは注意すべき點である。
- 6、魚肉を食する者割合に多く肉類は極く少し。
- 7、すきなものとしては男の豆類、女の果物は目立つて居る。
- 8、きらひなものとしては男女とも人参、ねぎ、

が多い。  
9、おやつとしてはさつまいも、菓子が主位を占む。

### 兒童辨當の心得

兒童辨當については、ともすれば等閑にせられ易いが、兒童の食物調査の結果から食物營養の點に考へて、兒童自身に心得しめねばならぬこと、母に心得しめねばならぬ方面が多くあることに思ひ至るのである。次に參考として指導資料を掲げることとする。

(大日本營養研究所發表)

- 一、カロリー十分に、
- 二、蛋白質裕かに、
- 三、無機質不足なく、
- 四、すべてのビタミン事足るやう、
- 五、これには米は七分搗、
- 六、肉や卵や魚、キノコ、蔬菜、梅干、胡麻鹽等適宜に品々取合せ、
- 七、にはひの高いものは避け、
- 八、煮た物よりは焼いたもの、汁氣、生物氣をつけて、
- 九、容器は洗つて乾かして、
- 十、飯も副食物も冷めてから。







優良辨當五種

- (一) 燻豆腐、あさり、牛蒡、大根、七分搗米。  
(温度 三二〇カロリ 蛋白質二・七瓦)
- (二) パン、バター、牛肉、キヤベツ。  
(温度 三四六カロリ 蛋白質二・二瓦)
- (三) 豌豆、牛肉、キヤベツ、七分搗米。  
(温度 三〇三カロリ 蛋白質二・三瓦)
- (四) ハゼ、シヤガ芋、キヤベツ、七分搗米。  
(温度 三〇一カロリ 蛋白質二・七瓦)
- (五) 權飯をキナ粉まぶしとじ中に人参、おろし、白魚子を入れる。  
(温度 三三三カロリ 蛋白質三・〇瓦)

不良辨當五種

- 一、白米に醬油を混ぜたるもの。  
(一名醬油御飯) (温度 三六六カロリ 蛋白質七・九瓦)
- 二、澤庵、白米。  
(温度 三三三カロリ 蛋白質八・八瓦)
- 三、梅干、白米。  
(温度 二七五カロリ 蛋白質五・七瓦)
- 四、パン、シヤム。  
(温度 二五〇カロリ 蛋白質七・二瓦)
- 五、油揚、ヒジキ、白米。  
(温度 二七五カロリ 蛋白質五・七瓦)

昭和七年五月十二日印刷納本  
昭和七年五月十五日發行

頒價實費  
【金五十錢】

不  
許  
製

著者 横濱市鶴見區平安町一ノ一五 山崎 博  
發行人 横濱市中區平沼アパート三四號 鈴木 憲一  
印刷人 川崎市新川通ヲ三三二 福原 清八

發行所 横濱市中區平沼アパート三四號 教育素描社



